

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会
2013 No.1092

3

特集：東海支部特集



同志社大学今出川キャンパス 「良心館」見学会

〔この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。
(社)大阪府建築士会 (2単位)
(社)日本建築家協会 (2単位)〕

●建築概要

所在地 京都市上京区今出川通烏丸東入御所八幡町106番
建築主 学校法人 同志社
設計 同志社大学今出川キャンパス整備事業
東畑・類 設計共同企業体
担当 東畑建築事務所
施工 戸田建設株式会社
敷地面積 56,602.17㎡
建築面積 8,619.19㎡
延べ面積 40,273.47㎡
構造規模 SRC造、RC造
竣工 2012年10月末 (建物本体)
建物用途 大学

2010年秋に同志社中学校が岩倉に移転後、その跡地を大学が利用、教学体制の再構築を行うことによりこの新棟を建設することとなった。

この良心館は、主に学生数増加に伴う教室・ゼミ室の新設、食堂・コンビニ・書籍販売などの福利厚生施設の移設のほか、国内では最大級となるラーニングcommons約2,550㎡を設けている。

建物の構成としては、北側から「教室エリア」、教務・事務、ラーニングcommonsのある「中央エリア」、チャペルに面した南端に「学部エリア」を配置した明快なゾーニングとし、建物中央部に南北に貫く吹抜け空間「ルーセントプラザ」を中心に一体的に構成している。

建物デザインは、歴史あるキャンパスの景観を受け継ぎ、既存校舎群との調和を図りながら、新しい今出川キャンパスのシンボルとなる施設として整備した。外装はレンガの中空積とタイルで構成し、上層部は白を基調としたタイルとすることで圧迫感を軽減している。烏丸通に面する北側には、キャンパス内に現存する「啓明館 (登録有形文化財)」をデザインモチーフとしたツインタワーを

設け、今出川キャンパスの新たなランドマークとした。南側上部にはレンガルーバーを設けることで新たな表情をつくりだしている。

今回、新棟周辺外構の整備も同時に行い、良心館南側にある建物を撤去し、芝生広場「サンクタスコート」を整備し、キャンパスの通りに面して、彰栄館・礼拝堂・ハリス理化学館 (重要文化財) が大学創生期の配置になり、原風景を思いおこす空間として整備される。

(笹村欽也、石井康彦／東畑建築事務所)

日時 2013年 3月23日 (土)
14:00～16:30 (予定)
講師 笹村欽也氏、石井康彦氏
(株)東畑建築事務所

集合 現地 (京都市上京区今出川通烏丸東入御所八幡町106)

定員 30名 (申込先着順)

参加費 会員1,500円、一般2,500円
学生1,000円

申込方法 FAXまたはEメールで、
①催し名「同志社大学」
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証送付先
⑥連絡先電話番号
⑦CPDを申請される方は、
申請先の団体名とIDを明記

申込先 (社)日本建築協会編集事業課
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaj.or.jp



建築協会東海支部主催 見学会のお知らせ

- 豊橋市芸術文化交流施設 (穂の国とよはし芸術劇場PLAT) 現地集合現場見学会
- 式年遷宮記念伊勢見学会

■豊橋市芸術文化交流施設 (穂の国とよはし芸術劇場PLAT) 現地集合現場見学会
(日本建築学会との合同開催です)

日時 4月13日 (土) 13時
集合時間12時半
集合場所 豊橋市芸術文化交流施設前庭 (豊橋駅前すぐ)
募集人数: 30名
参加費用: 1000円程度
申し込み: 日本建築協会東海支部
Tel.052-261-1451
Fax.052-261-0251
E-mail:info@aaj-tokai.jp
申込者には東海支部より返信連絡致します

施設概要

施主 豊橋市芸術文化事業サポート株式会社
設計 豊橋市芸術文化交流施設香山壽夫建築研究所・大成建設設計共同企業体
施工 大成・豊田建設共同企業体
延床面積: 8,013.52㎡
正式オープン予定: 4月30日
詳しくはHPをご覧ください。
<http://www.aaj-tokai.jp>

■式年遷宮記念伊勢見学会
(バス日帰り)

式年遷宮が秋に行われます。見学会を只今企画中です。予定を空けておいてください。
次月に詳細をお知らせいたします。
昼食は伊勢名物てこね寿司の予定です。

日時 5月19日 (日)
見学先 せんぐう館・下宮・内宮・神楽殿・内宮参集殿・おかげ横丁など
集合場所 名古屋駅に8時頃の予定
参加費用: 未定
(8000円～9000円程度 昼食・見学料込)
募集人数: 40名
申し込み: 日本建築協会東海支部
Tel.052-261-1451
Fax.052-261-0251
E-mail:info@aaj-tokai.jp

第12回 読者と選ぶ 「建築と社会」賞のための アンケート回答募集

2012年1～12月号
「建築と社会」誌から

*2012年の誌面詳細は、2012年12月号p53に掲載している総目録または日本建築協会HPをご覧ください。

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象

「建築と社会」2012年1～12月号に掲載された作品、及び個別の論文・記事を対象とする。

・「作品作風頁」欄、及び「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品

・「特集頁」掲載の個々の論文・記事
—特集頁全体は選考対象としない—

・「シリーズ頁」の論文・記事（gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、再読関西近代建築、関西の建築界／群像、新建材の頁、素材最前線、REPORT頁、Member's Forumほか）

■賞の部門

作品部門／1～4点

論文・記事の部門／1～4点

■会員読者による第一次選考

会員読者から投票された「作品」及び「論文・記事」に、編集委員会の意見を加味して各部門10点程度選出。これを第二次選考対象とする。

■選考委員会による第二次選考

第一次選考を通過した選考対象を、選考委員会で選出。（該当者に写真、図面、設計主旨などの説明資料を求めることがある）

■第11回選考委員（予定）

田中直人（摂南大学理工学部・教授／選考委員長）

井上雅人（武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科・講師）

高砂正弘（和歌山大学システム工学部システム学科・教授）

谷口与史也（大阪市立大学大学院工学研究科・教授）

■発表と表彰

作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に、論文・記事部門は執筆者（複数の場合は代表者）に、賞状（記念楯）を贈呈する。表彰式は6月中旬を予定。入賞発表は「建築と社会」2013年7 or 8月号予定。

■投票締め切り

2013年3月8日（金）

■送付先

（社）日本建築協会

FAX 06-6946-6984

e-mail: kyoukai@aaj.or.jp

〒540-6591

大阪市中央区大手前1-7-31

OMMビル7階

なお、日本建築協会ホームページ<http://www.aaj.or.jp>からも、ご投票いただけます。

「建築と社会」賞 読者アンケート

送付先

（社）日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail: kyoukai@
aaj.or.jp

「建築と社会」2012年1～12月号で、よいと思われた作品・論文・記事（特集の場合は個々の論文・記事を対象とする）、その他本誌に対するご意見を記入の上、e-mailまたはFAXで、（社）日本建築協会へご投票下さい。

（2012年〇〇月号掲載の作品、論文・記事名及び同執筆者名を明記してください）

（1）お名前

（2）勤務先または連絡先

（3）とくによいと思われた作品とその理由

（4）とくによいと思われた記事とその理由

（5）本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたら、ご記入下さい。

若き創造者たちへ

「第60回青年技術者顕彰」へのおさそい

日本建築協会では、昭和29年から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年は第60回という節目の年となりましたが、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（平成25年3月29日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。
2. 原則として、すいせん者を通じて応募する。
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしたげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第60回青年技術者特集号」（平成25年7月号）に掲載する。

6. 提出資料

■すいせん用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードして下さい。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めてA3判用紙5枚以内にまとめる。

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料
- ④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者本人の執筆に限る。このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。

7. 提出期限 平成25年3月29日（金）

8. 提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャンダイズ・マートビル7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

Email : h-katayama@aaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会（平成24年度）※3月現在

委員長 米井 寛／㈱東畑建築事務所執行役員大阪事務所副所長

委員 吉岡 聡司／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻／キャンパス地域デザイン研究室助教

佐々木 栄／㈱昭和設計執行役員建築部門建築設計部統括

八木 康行／スタジオエイトアーキテクト代表

高梨雄二郎／㈱竹中工務店プロジェクト開発推進本部副本部長（西日本担当）

山浦 晋弘／㈱安井建築設計事務所構造部長

辻 聖晃／京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

高山 真／㈱日建設設備設計部門設備設計部長

町澤真一郎／清水建設㈱関西事業本部設備設計部グループ長

山辻 直樹／大成建設㈱関西支店建築部購買管理室課長

阪井 聡／㈱大林組大阪本店建築事業部生産技術部部長

建築と社会

Architecture and Society

3 | NO.1092 | 2013
日本建築協会

■特集予告

- 4月号/第19回 会員作品「私の空間作法」
- 5月号/コミュニティの「かたち」
～人と人とのつながりを再考する～

今月の表紙

福岡市美術館

設計：前川國男
竣工：1979年
所在：福岡県福岡市



接点に置かれたガラススクリーンに建築の本質を見る。その先にあるものを透過し、背後にあるものを写し込む。それらは滑らかに混ざり合う。空間体験者の心象風景のように。前川作品としてはあまり知られていないものだが、ここでも内外の連続性が強く意識され、人々がくつろぐ姿や四季の移ろいが滑らかに混ざり合い、1つの風景となっている。

(大西広朗/東畑建築事務所)

デザイン：嘉村知紀(東出清彦写真事務所)
撮影：嘉村知紀(東出清彦写真事務所)

特集●東海支部特集

■東海支部会員作品2013

名古屋電気学園 淳和記念館	10
岡崎市医師会 はるさき健診センター	12
飛騨市立古川小学校	13
藤田保健衛生大学病院 低侵襲画像診断・治療センター	14
下呂市立金山病院	16
知多信用金庫乙川支店	18
JAあいち豊田高岡支店	20
三重銀行東海支店	22
豊橋信用金庫問屋町支店	24
新東工業株式会社 諏訪独身寮	25
日本平ホテル	26
名古屋クロスコートタワー	28
シーキューブ株式会社二瀬ビル	30
名古屋鉄道鉄道センタービル	32
RE錦二丁目ビル	34
神宮会館 講堂棟	36

■Tokai Sketch Book

■三重の建築文化にみる遺伝子

先人たちの夢見た空間～三重をつくった地域の建築家・技術者～	
●菅原洋一	41
みえの歴史街道を活かした取り組み●三重県環境生活部文化振興課	46
「せんぐう館」の設計にかかわって●栗生 明	48
「悠久の杜・標せ平成の匠のこころと技」	
～伊勢神宮外宮神楽殿での試み～●宇野康則	50
伊勢神宮と式年遷宮●飯田喜四郎	52

■東海の建築：架構

新城市立黄柳川小学校●東畑建築事務所	56
名古屋市科学館●日建設計	57
瀬戸信用金庫藤が丘出張所●竹中工務店	58
T Gate House●安井・タキモトアーキテクツ設計共同体	59

会告	第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞アンケート回答募集、同志社大学今出川キャンパス「良心館」見学会、建築協会東海支部主催見学会のお知らせ「豊橋市芸術文化交流施設（穂の国とよはし芸術劇場PLAT）」「式年遷宮記念伊勢減額会」、若き創造者たちへ「第60回青年技術者顕彰」へのおさそい。	1
作品作風	兵医信本店ビル ザ・宝塚タワー	4 6
gallery	ヒトスジ●升田 学	8
法令コーナー	神戸らしい都市景観を一事前協議を条例で位置づけー ●神戸市都市計画総局計画部まちのデザイン室	60
構造の頁	製材組梁のコノイド曲面屋根とRC壁柱のハイブリッド構造 ー道の駅しんしのつ産直市場ー●若松宏輔	61
関西の建築界群像	木村 松本●黒川祐樹	62
再読	中央電気倶楽部●植松清志	63
関西近代建築		
information	升田学ヒトスジ展 空地、円山応挙展ー江戸時代絵画 真の実力者ー、特集展 人間国宝 濱田庄司の茶碗ー堀尾幹雄コレクション、階調の美・銅版画、超・大河原邦男展ーレジェンド・オブ・メカデザインー、春季特別展 古代ガラスー色彩の饗宴ー大英博物館の名宝・特別展、「MOK2013」第18期生募集要項	67
月間の動き	平成25年1月	69



建 築 主 兵庫県医療信用組合・兵庫県医師協同組合
設計・監理 安井建築設計事務所
施 工 清水建設

兵医信本店ビル

医療・医薬の従事者を対象に設立された信用組合本店ビル（兵庫県医師協同組合との共同ビル）の新築計画である。創立50周年を機に、神戸の中心である三宮の南東部（三ノ宮南地区）の角地に移転された。

医療関係の金融機関として相応しい外観と店舗イメージが求められ、「清楚」「品格」「明快」をコンセプトに安心感・信頼感ある建物を目指した。

新たなランドマーク

外壁は高耐久で質感豊かな石張りとして、堅実さや安心感を生む外観としている。縦強調のシンプルさとともに親しみある建物となるよう、交差点に面する部分は曲面として、街に対し穏やかな表情の新たなランドマークとなっている。

顧客を招き入れる仕掛けづくり

交差点に面したエントランスは、来客者を招き入れる門型の構成としている。2層吹き抜けのホールは2階の店舗へわかりやすく導くエスカレーターを設け、白色を基調とする大理石によって清潔感あるイメージづくりを行っている。

フレキシビリティを高める

各階で異なる用途・機能を満足させるために、西・北側の道路側から採光を確保した16m×18.9mの無柱空間とし、建物東側に階段・エレベーター・便所などコアを集約した平面計画としている。将来の変更にも対応しやすいよう、間仕切りの乾式化や無柱空間部のOAフロア化を徹底している。

（小林直紀・森 雅章／安井建築設計事務所）

所 在 地——神戸市中央区磯上通3丁目

敷地面積——495.88㎡

建築面積——439.52㎡

延床面積——2,942.06㎡

構造規模——S造、地上7階、塔屋1階

工 期——2012年1月～2012年10月

最 寄 駅——JR三宮駅

撮 影——フジタ写真工房





外觀全景（南側）※

建築主 MID都市開発株式会社
近鉄不動産株式会社
新星和不動産株式会社
株式会社サンボックス
設計・監理 大林組大阪本店一級建築士事務所
施工 大林組

ザ・宝塚タワー

ー宝塚南口サンビオラ3番館建替計画ー

●駅前再開発施設の「再生」

本計画は、日本初の再開発事業の建替計画である。以前は集客力のある商業施設が中心の複合施設であったが、年月を経て人の流れがなくなり、施設を建て替えることとなった。

計画地周辺には、宝塚駅から宝塚大劇場を繋ぐ「花のみち」や「宝塚ホテル」など、ヨーロッパの建築様式を取り入れた独特の景観が形成されている。このような街並みとの一体感を持つ建物とすることで、宝塚南口駅前の「再生」を目指した。

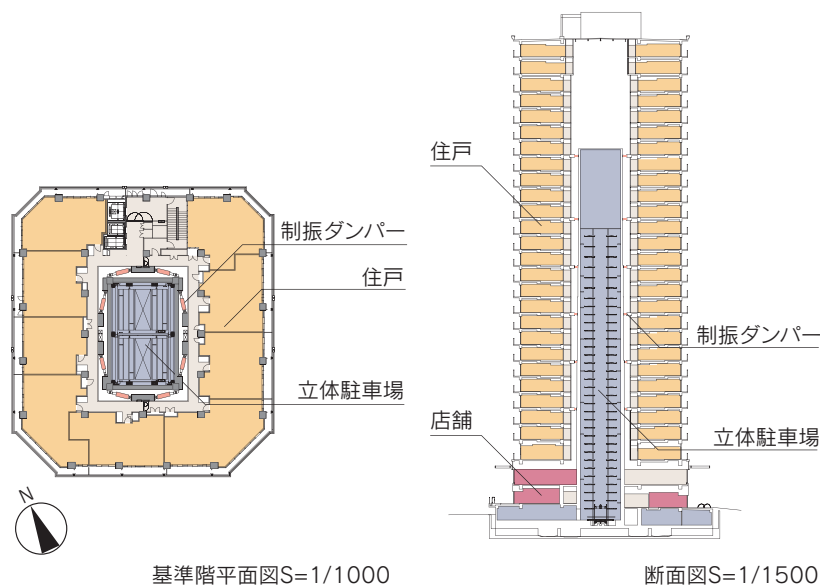
建物周囲に公開空地を設け、人々が歩き憩える空間を敷地内に創出した。以前には見られなかった敷地北側（宝塚大橋）と南側（宝塚南口駅）を往来する新たな人の流れを生み出している。また、公開空地に沿った外観には、宝塚の街に見られるデザインモチーフや素材、色彩を反映させた。宝塚の文化を継承しながら、新たな街のにぎわいを生み出している。

●居住性の向上を実現する制振システム

本計画では、当社独自の制振構造システムである『デュアルフレームシステム (DFS)』を採用した。この構造システムにより、住戸内の無柱・無梁空間化やパノラミックな眺望など、開放的で自由度の高い居住空間を創出した。高い制振性と居住性を併せもつ住宅とすることで、自然と文化があふれる宝塚の景観を満喫できる豊かな住まいを実現した。

(藤岡慶子・中村祐記／大林組)

所在地——兵庫県宝塚市南口2丁目14-3
敷地面積——2,572.44㎡
建築面積——1,393.02㎡
延床面積——29,868.91㎡
構造規模——RC造（DFS制振構造）、地上28階、地下1階
工期——2010年4月～2012年8月
最寄駅——阪急電鉄今津線 宝塚南口駅
撮影——河合止揚（アトリエベラ※）、藪内正直（伸和）



3階リバービューラウンジ



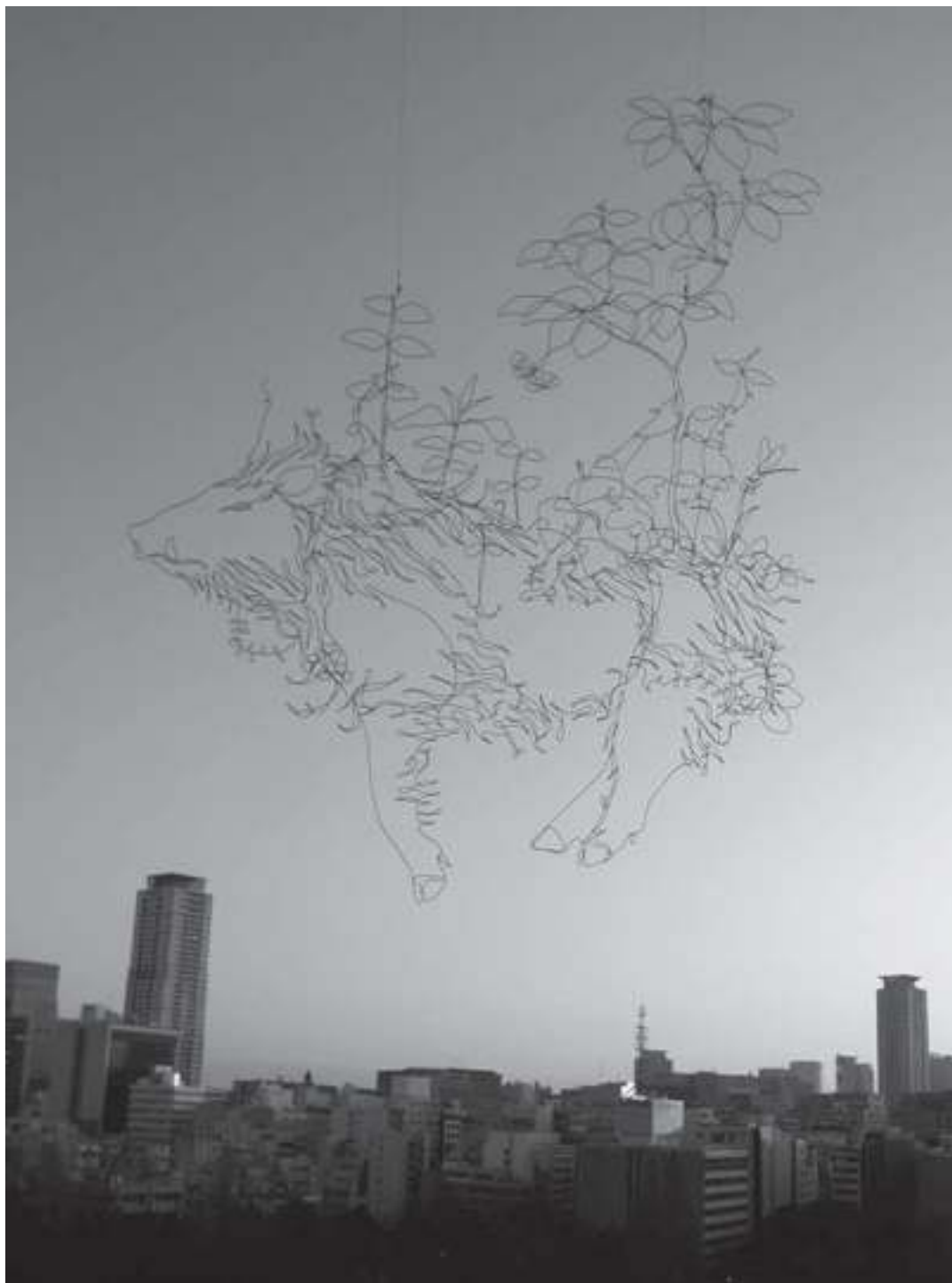
ゲストスイート



外観全景（北側）※



外構（南側公開空地）※



「再生 イノシシ」 2011年



「再生 横たわる女」 2011年



「再生 鹿」 2011年



「空地01」 2013年ディティール



ヒトスジ

Wire Sculptor

升田 学

「ヒトスジ」とは、一本の針金から一筆書きの要領で制作される美術作品である。これまで「人の筋」「一本の筋」をキーワードとして、「繋がり」「連鎖」「血脈」を感じさせる作品を数多く制作している。人や動物・植物を結ぶ食物連鎖作品。胎児と母親を結ぶ妊婦作品、裸婦と花を重ね合わせた生と性の作品など。

作品は、平面を意識して制作しているが、それでいて面をもたないことが大きな特徴である。白壁や土壁などが背景となる室内の場合はライティングによる影を、空や森などが背景となる場合はその場所を取り込むことを意識して展示する。同じ作品でも飾る場所によってずいぶん違った表情を見せる。

現在は、1.6mmのステンレス製の針金を使っており、大きい作品では300m以上使用したものもある。

升田 学（ますだ まなぶ）

1973年 兵庫県生まれ

1995年 広告デザイン会社入社

1997年 劇団維新派入団

2002年 アートンデザイン室開設
(現アートン)

2006年 ヒトスジ初個展

2008年 アムステルダム ヒトスジ展

2010年 LOVE PSYCHEDELICO シングルCDジャケット採用

<http://.a-t-n.jp/>

企画編集 芳谷晴彦(作品作風小委員会)

東海支部会員作品2013

名古屋電気学園 淳和記念館
岡崎市医師会 はるさき健診センター
飛騨市立古川小学校
藤田保健衛生大学病院 低侵襲画像診断・治療センター
下呂市立金山病院
知多信用金庫乙川支店
JAあいち豊田高岡支店
三重銀行東海支店
豊橋信用金庫問屋町支店
新東工業株式会社 諏訪独身寮
日本平ホテル
名古屋クロスコートタワー
シーキューブ株式会社二瀬ビル
名古屋鉄道鉄道センタービル
ORE錦二丁目ビル
神宮会館 講堂棟

「建築と社会」東海特集特別編集委員会

委員長：福田泰造

特集記事担当委員：松本壮一郎、河田克博、今津芳清

作品作風担当委員：土井敬三、池村忠久

委員（順不同）：松元親司、篠原佳則、後藤利秋、中村哲士、山本敦子、芳山明久

本梅 誠、富田昌志、加藤武範、今井祥子、西澤太良、寺西敦敏

北川貴啓、釣 祐二、杉澤和男、寺本英一、野呂和弘



名古屋電気学園 淳和記念館

建築主 学校法人 名古屋電気学園
設計・監理 清水建設
施工 清水建設

■『学校法人名古屋電気学園』の100周年記念事業の一環として

「学園の歴史」「教育の歴史」「部活動の歴史」の保存、管理とあわせて展示を行う『メモリアルギャラリー』を設け、プラスバンドの合奏室としても利用できる記念ホールを計画。

また、この地にあった「愛名館」（体育館）、モノづくりを教える機械・電気・材料の実習室、プラスバンドの練習場を1つの建物として配置した。

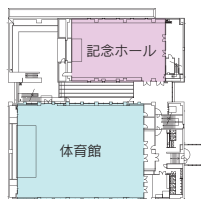
■記念館としてのファサード

建物のファサードは、100周年の節目として記念館らしい佇まいをという要望により、建物を宝箱と置き換えて計画した。石貼のBOXを記念館として構築し、既存の普通教室の建物と、記念館との間の実習ゾーンは、学校としてのつながりを持たせるため、RC打放しとした。記念の箱と実習ゾーンの箱が共存しあう建物として工夫している。

■メモリアルギャラリー

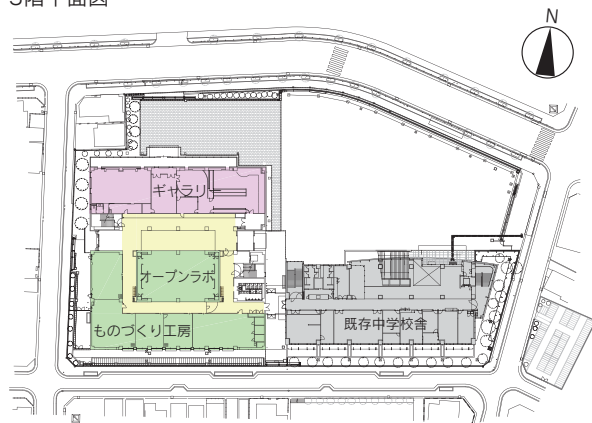
今までの学園の歴史を展示し、保存するギャラリーを1階に設け、今までとこれからの学園の在り方を表現できる展示空間を計画した。モノづくりの実習室は、モノが順番にできていく過程をカリキュラムとともに検討し、回廊を歩くことでわかるように、外からも見える構成としている。また、天井の中はPC板・ダクト・配管・電気もすべて系統別に色付けを行い、ルート・先行等生徒にもわかるようにスケルトンとし、それらが教材になるようにしている。

(須永浩邦・加登剛司／清水建設)



3階平面図

所在地——愛知県名古屋市千種区若水3-2-12
敷地面積——7,163.15㎡
建築面積——2,186.33㎡
延床面積——6,801.95㎡
構造規模——RC造、地上5階
工期——2011年6月～2012年10月
最寄駅——地下鉄東山線 池下駅
撮影——ロココプロデュース



配置・1階平面図



モノが順番につくられる過程を見られる実習室。



2つの箱（記念館と実習ゾーン）をつなぐアトリウム。ロボット大会等イベントでも使用できるようにしている。



色分けしたダクトを
活きた教材としている

岡崎市医師会 はるさき健診センター

建築主 一般社団法人岡崎市医師会
設計・監理 日建設計
施工 清水建設

所在地 愛知県岡崎市針崎町字春咲1-3
敷地面積 21,270.15㎡
建築面積 3,751.24㎡
延床面積 8,446.35㎡
構造規模 S造・SRC造、地上3階
工期 2010年10月～2011年12月
最寄駅 JR東海道本線 岡崎駅
撮影 フォトリノ

新しい中学校とニュータウンの丘に位置する、1日約200人が男女別々のエリアにて受診できるプライバシーに配慮した健診センター。
開発は、周辺の住宅敷地のレベルに合わせて3段に造成して、搬出土量削減と環境配慮を図り、建物は、隣接した住宅地に対して威圧感が少なくなるよう、敷地高低差を利用して、玄関がある北側は3階建て、住宅地に面した南側は2階建てとなる構成とした。
環境にやさしい建築（CASBEE-S）を目指し、外装は、Low-E複層ガラスや深い庇・ライトシェルフ、遮熱塗料などを採用した。

外構では、ゆるやかな法面アプローチなど植栽帯を最大限確保すると共に万博で採用された透水・保水性アスファルト舗装を採用した。
健康を守る施設として、市民から親しまれるよう、遠くからでも一目でわかるシャープな外観、白を基調としたやさしく清潔感のある内装デザインとした。
また、エントランスホールから連続させて、2層吹抜の待合スペースをスキップ状に設け、トップライトと大きな窓からの光を奥まで導き、明るく分かりやすい空間構成とした。
（野崎庸之・荒川康弘／日建設計）



敷地高低差を利用した緑の法面アプローチと深い庇・ガラスのシャープな外観デザイン



杉小帽の特殊型枠の深い庇とライトシェルフ



明るい2層スキップ吹抜のエントランスホール



内壁のエリア毎のデザインカラーが浮かぶ夜景外観



飛驒の白壁と木格子をモチーフとした校舎外観

飛驒市立古川小学校

建 築 主 飛驒市
 設計・監理 日建・小林特定委託業務共同企業体
 施 工 校舎棟建築：洞口・永山・丸茂JV
 体育館棟建築：奥野工務店・坂本土木JV
 電気：ヨシキ
 機械：三晃設備工業・古川住設管工事JV

所 在 地——岐阜県飛驒市古川町片原町
 敷地面積——32,373.75㎡
 建築面積——7,520.71㎡
 延床面積——8,739.38㎡

構造規模——RC造・W造・S造、
 地上2階
 工 期——2009年9月～2011年2月
 最 寄 駅——JR高山本線 飛驒古川駅
 撮 影——車田写真事務所

緑の山並みを背に出格子の商家や白壁の土蔵の古い街並みが残る、飛驒古川に立地する小学校である。のびやかな白壁と木格子をモチーフに周辺に広がる低層住宅地の風景に調和するよう、分棟した校舎の屋根が重なり合い集落のような家並みをつくる低層校舎とした。児童の生活のしやすさを考えた2階建ての校舎とし、学年単位の棟が並ぶ櫛型の校舎は、全ての教室が木の集成材を室内に表す勾配屋根による高天井の空間として、北側の高窓から柔らかな自然光を導く明るい学習環境とした。

(若林 亮、奥宮由美、石森秀一／日建設計)



周辺の家並みに調和する集落のような屋根の重なり



大雪に耐える木とスチールによる屋根構造と組木をモチーフにした吸音壁



児童をあたかく見守るおおらかな曲線を描く木の集成材



藤田保健衛生大学病院 低侵襲画像診断・治療センター

建 築 主 学校法人藤田学園
設計監理 竹中工務店
施 工 竹中工務店

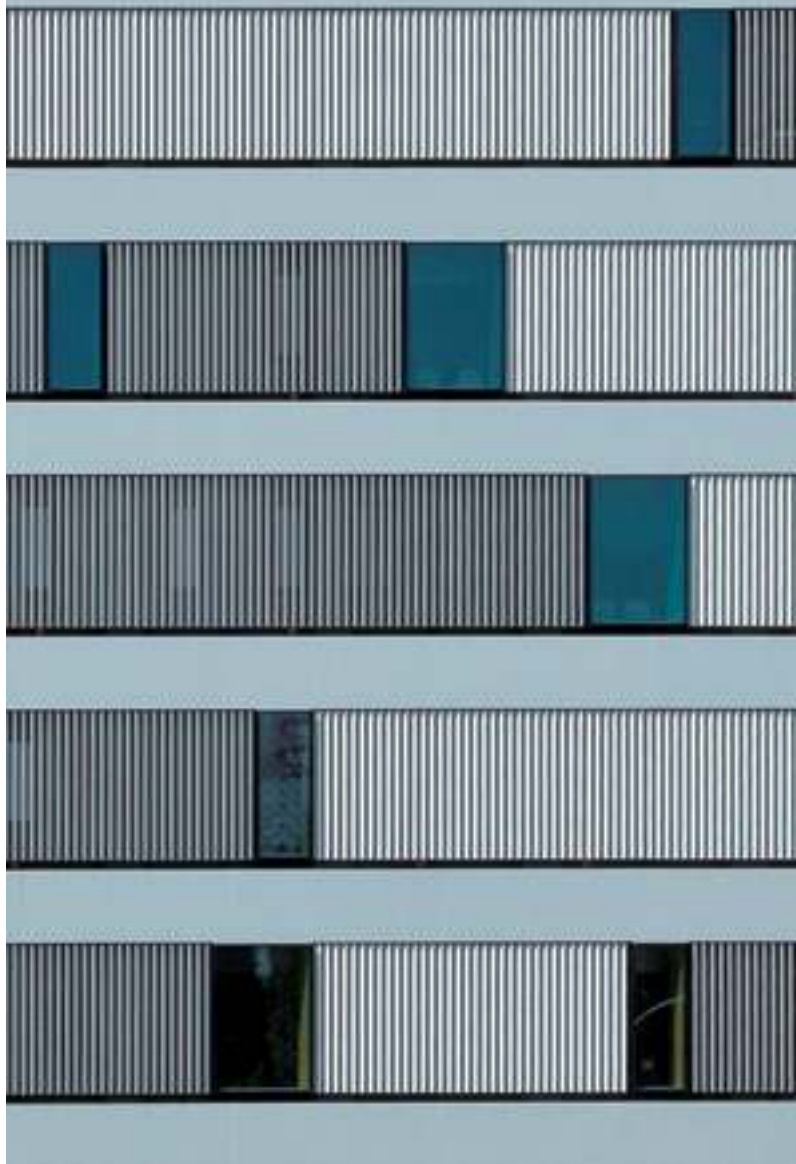
所 在 地——愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪1番地98
敷地面積——225,669.45㎡
建築面積——1,360.98㎡
延床面積——8,640.03㎡
構造規模——RC造・一部S造（免震）、地上6階、地下1階、
 塔屋1階
工 期——2011年4月～2012年10月
最 寄 駅——名古屋市営地下鉄桜通線 徳重駅
撮 影——アーキフォトKATO

1フロアに1モダリティ（リニアック、PET-CT、MRI、CT、X線TV）を配置し、積層した大学病院の画像診断・治療部門のデパートメントビルディングである。「サステナブル・ホスピタルの追求」をテーマに計画時におけるプランの自由性、将来改修時における更新性を最大限考慮し、「ハイブリッド架構システム」「ダブルスキン外装システム」を医療施設に適用した。ハイブリッド架構システムによる無柱空間は各モダリティに応じた自由なプランを可能とし、ダブルスキン外装システムは増築時の接続にも配慮した機能的かつシステムティックな外装を実現した。内部空間での「視線の抜け」に配慮し動線の突き当りや溜り空間に設置されたピクチャーウィンドウはプランにより各フロアで異なり、外観にリズムを与えている。ファサードは高度な低侵襲医療技術を支える最新鋭医療機器が設置された施設の「先進性」の表現を目指した。

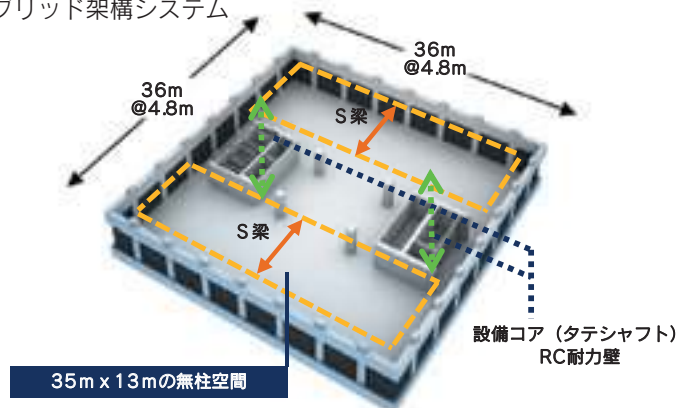
人の命を守るための機器を含めた医療技術の進歩は、「単に病巣を早く取り除く」という発想から転換し、「人の体にできるだけ優しい（＝低侵襲：痛みを軽減し人体への負荷が少なく、回復も早い）」検査、治療法の開発が進められている。建築の場合も同様に、地球環境にできるだけ優しいサステナビリティが求められる。そのための技術開発は急務であり、これら技術の開発、改善に少しでも寄与したいと思う。

（市川健二・斉藤憲司／竹中工務店）





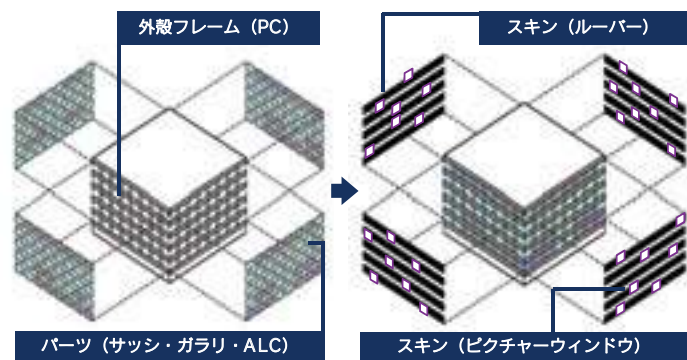
■ハイブリッド架構システム



- 下記により35m×13mの柱無空間を確保 → 理想的なプランニング
- ・ P C扁平柱、梁による外殻フレーム (RC、免震構造)
 - ・ 設備ルートに対応した長スパンS梁
 - ・ コア部分および外周にのみ配置された耐震要素



■ダブルスキン外装システム



- インナースキン
P C外殻構造の柱、梁の隙間に機能に応じてモジュール化されたパーツを組み込む合理的な外装

- アウトースキン
自然光の制御、プライバシーの保護 (視線の制御)、外観の調整などの機能をもつ表層スキン





風景、既存建物と調和する外観

下呂市立金山病院

建 築 主 下呂市
設計・監理 東畑建築事務所
施 工 戸田建設

地域医療の再生をテーマとした99床の市立病院の移転新築である。敷地には保健センター、特養、温浴施設などの福祉・健康施設が立地し、この中心に新病院を配置することで、既存施設と連携し「予防－医療－保健－福祉－介護」のシームレスな一大包括医療・福祉ゾーンとなった。各施設を共用駐車場を囲う扇形配置とし、視覚的連携を意図して各施設長い車寄せでついだ。背後に控える山並みと調和した勾配屋根、アースカラーの外壁とともに、前からそこに建っているような建物一群の連携・調和を図った。

コンパクト化と利便性の向上の両立を目指した平面プランは、共用化・集約化を図り、短い動線で各部門にアクセスできる計画としている。外来診療部門は1階で完結させ、別入口を設けた健診部門からは検査・放射線部門に直近でつながることが可能である。2階に配置したリハビリ部門には屋上庭園を隣接させ、面積を2倍に使える空間的余裕を創出している。

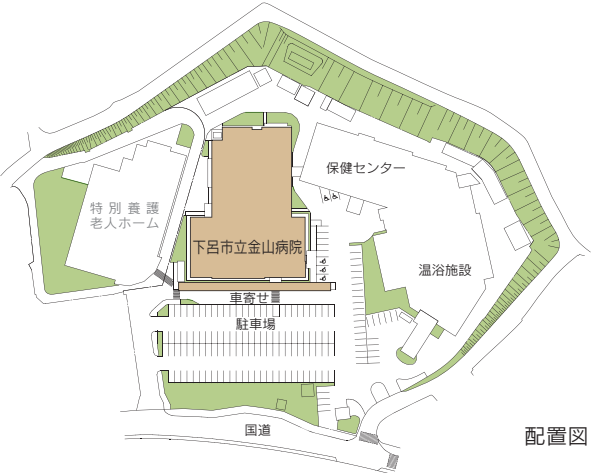
内装デザインは地域で生まれ、育ってきた人々を受け入れる病院であることを念頭に置き、木目を基調として暖かみのある空間づくりを目指した。車寄せや中央待合、E.V.ホール、スタッフステーション廻りなど利用者の日常的な動線の中には下呂市産の杉を使った空間を散りばめ、地域産業振興にも配慮した。

また、この規模の病院では、最大のヴァリューである免震構造を採用し、地震後においても施設機能が維持できる計画としている。

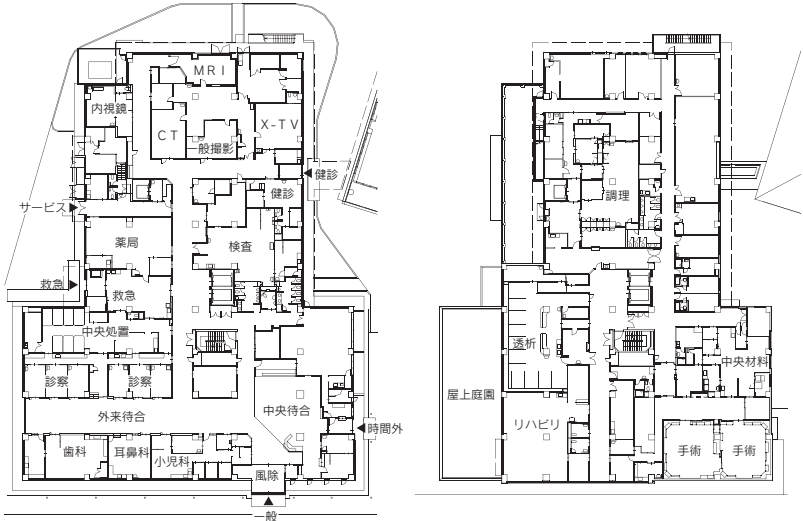
地域とのつながりを大切にした新病院が、地域医療、地域社会の維持に貢献すること期待している。

(犬飼直樹・寺尾達也／東畑建築事務所)

所 在 地 岐阜県下呂市金山町金山973-6
敷地面積 16,282.24㎡
建築面積 2,477.73㎡
延床面積 6,954.45㎡
構造規模 RC造（地下免震構造）、地上5階
工 期 2011年2月～2012年5月
最 寄 駅 JR高山本線 飛騨金山駅
撮 影 エスエス名古屋



配置図



1階・2階 平面図



既存建物との連続性に配慮した建物配置



下呂市産の杉を使った中央待合



木を基調とした暖かみのある外来待合



リハビリ部門に隣接した屋上庭園



病室（4床室）



既存建物をつなぐ長い車寄せ





外観 北東面 手前にポケットパークと記念碑

知多信用金庫乙川支店

建築主 知多信用金庫
 設計・監理 伊藤建築設計事務所
 施工 新美建設
 施工協力 日比七（外壁・塗装工事）
 榊原工事（金属製建具・硝子工事）
 鶴弥（瓦工事）
 久米電気商会（電気工事）
 日本空調システム（空調・太陽光発電設備工事）

旧店舗の老朽化、支店機能の充実のため新築移転となった。

敷地は駅前に接続する道路に面しており、利便性を考慮して駐車場を前面道路側に、支店建家を奥に配置した。

本支店は、古くからの家が多い周辺環境に調和するよう、切妻の瓦屋根を用いた落ち着いたある建家とし、外壁への熱負荷抑制効果を図る底と縦格子を外観のアクセントとした。

環境負荷低減対策として、屋根面に太陽光発電パネルを設置し、来客ロビー・営業室の照明はLED照明を採用した。

その他に保水性舗装・透水性アスファルト舗装・外構緑化・初期照度補正などを行った。

また、敷地はトヨタグループ創業者である豊田佐吉翁が発明した動力織機を初めて納入した乙川綿布合資会社の跡地であることから、敷地北東部の植栽・ベンチを設けたポケットパーク内にはんだ郷土史研究会により記念碑が建立された。支店内には関連資料の展示用に、来客ロビー奥にギャラリースペースを設け、土地の記憶を発信する場とした。

（富田昌志・高橋英明／伊藤建築設計事務所）

所在地——愛知県半田市乙川高良町
 敷地面積——1,064.29㎡
 建築面積——422.44㎡
 延床面積——688.91㎡
 構造規模——S造、地上2階
 工期——2011年10月～2012年4月
 最寄駅——JR武豊線 乙川駅
 撮影——センターフォト



来客ロビー 奥にギャラリースペース

屋根 太陽光発電パネル設置





JAあいち豊田高岡支店

設計・監理 伊藤建築設計事務所
施 工 アイシン開発

JAあいち豊田高岡支店は、旧店舗の老朽化対応と豊田市高岡地区の基幹店舗として機能の充実化のため新築移転された。豊田市のハザードマップによると逢妻男川氾濫による浸水高さが50cmあるため、1階床高さを前面道路から約1m高くし万一の浸水に備えた。また、店舗の前面に駐車場を配置し、駐車場全体でこの段差を吸収することで店舗正面の駐車スペースからも段差なくアプローチ出来るように配慮した。1階には営業時間の異なる金融部門と共済部門があるため、別室とすることで管理のしやすい計画とした。また、ロビーに地域住民が展示会等に利用できる談話コーナーを設置した。2階会議室は、高岡地区の総代が集まることのできる大会議室を設け、諸会議や研修会、各講座や教室が開催できるように移動間仕切で分割出来るようにした。

また、環境配慮手法として、高性能熱線反射ガラス・LED照明・太陽光発電・透水保水性舗装・トップライトを採用しエネルギー効率の高い建物とした。

(渡邊國雄・犬飼高嘉／伊藤建築設計事務所)



外観 北面



1階 ATMコーナー



1階 ロビー



2階 ロビー



2階 会議室

所在地——愛知県豊田市若林西町
敷地面積——2,535.78㎡
建築面積—— 668.66㎡
延床面積——1,008.02㎡
構造規模——S造、地上 2 階
工 期——2011年10月～2012年 4 月
最 寄 駅——名古屋鉄道三河線 若林駅
撮 影——エスエス名古屋



三重銀行東海支店

建 築 主 三重銀行
設計・監理 伊藤建築設計事務所
施 工 生川建設
施 工 協 力 石川商工（外壁工事）
三鈴産業（金属建具工事）
隆一産業（内装工事）
トーエネック（電気設備工事・太陽光パネル工事）
三和テクノ（給排水衛生設備工事・空調換気設備工事）

所 在 地——愛知県東海市大田町蟹田67-1
敷地面積——1,287.98㎡
建築面積—— 553.48㎡
延床面積—— 962.35㎡
構造規模——S造、地上2階
工 期——2012年3月～2012年9月
最 寄 駅——名古屋鉄道常滑線 太田川駅
撮 影——センターフォト



外観 北面

三重銀行東海支店は、名鉄常滑線太田川駅付近連続立体交差事業及び太田川駅周辺土地区画整理事業に伴い、2005（平成17）年に建てた仮店舗から移転新築された。

敷地は駅前ロータリーに近接しており、利便性を考慮して前面道路側に駐車場を、奥に支店建家を配置した。

本店舗は従来の店舗とは異なった新しいモデル店舗として位置付けられて企画された。建物外観は三重銀行本店のイメージを継承して、縦方向のカーテンウォールと花崗石貼りが連続する立面としている。店舗の照明は全箇所LED照明を採用したほか、建家屋上に設置した太陽光パネル、屋上緑化はプラットホームや電車内からも見ることができ、名鉄利用者へ環境に配慮した施設であることをPRしている。外構には緑地を積極的に設けて駅前周囲の環境との調和を図っている。

（蔵堀健夫・石橋洋二郎／伊藤建築設計事務所）



外観 夜景 北西面



1階 ロビー



1階 ロビー



屋上 太陽光パネル、屋上緑化



外観 全景

豊橋信用金庫問屋町支店

建 築 主 豊橋信用金庫
設計・監理 伊藤建築設計事務所
施 工 神野建設

所 在 地——愛知県豊橋市問屋町15-1
敷地面積——1,015.88㎡
建築面積—— 390.74㎡
延床面積—— 692.50㎡
構造規模——S造、地上 2 階
工 期——2011年 8 月～2011年 5 月
最 寄 駅——JR東海道本線 豊橋駅
撮 影——エスエス名古屋



外観 全景（夜景）

豊橋信用金庫は、大正10年創業以来、地域に根ざした活動を通して「とよしん」の愛称で親しまれている。問屋町支店は豊橋総合卸センターに立地し、卸センター唯一の金融機関として地域に貢献してきたが、店舗の老朽化対策と営業の効率化を図るために現在の敷地内において建て替えを計画した。建物正面は利用者の多い卸センターに向けて配置し、端整な立面を構成した。平面は「L字」型とし、限られた建替可能範囲の中で既設店舗を避けた最大の敷地利用を実現した。

環境に配慮した店舗を目指し、雨水利用設備や複層ガラス、駐車場には保水性舗装を導入している。また、屋外看板はLED内照式看板とし、タイマー制御で23時まで点灯させ周辺へ明るさを提供し、また夜間利用者のアイストップとされている。

（渡邉國雄・山本貴史／伊藤建築設計事務所）



外観 玄関

所在地——愛知県豊川市諏訪3丁目
敷地面積——6,000.39㎡
建築面積——1,781.25㎡
延床面積——4,493.43㎡
構造規模——RC造、地上4階
工期——2012年2月～2012年10月
最寄駅——名古屋鉄道豊川線 諏訪駅



新東工業株式会社 諏訪独身寮

建築主 新東工業株式会社
設計・監理 生活工房 仙
施工 銭高組名古屋支店

計画地は豊川市の市役所、消防署、市民プラザ等の公共施設が集まる中心部に位置し、南には名鉄豊川線の諏訪駅が近い、至便で静かな住宅地である。

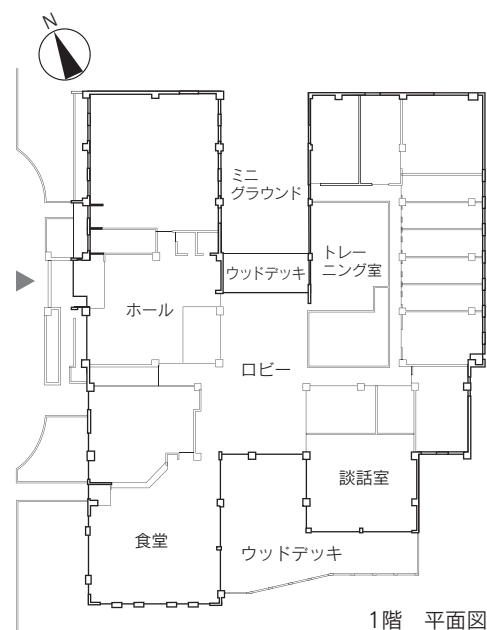
この地は昭和40年前後に建設された壁式RC造共同住宅の社宅、及び独身寮の用地として最近まで活用されていたもので、新たな時代にふさわしい独身寮と単身赴任の社宅を建設するものである。

この独身寮の設計は、社員の希望を多く取り入れ、働く希望と喜びの実現に寄与する建物とした。また、環境上は熱効率の高い太陽光温水器を利用した給湯システムを採用し、LED照明の採用と壁面緑化の採用など省エネ計画とした。

1階は食堂、浴室、トレーニングルームを配し全て共用部とし、2階から4階は寮室（個室）102室の専用部として計画。1階の南テラスのウッドデッキからロビーを通過して北のミニグラウンドに至る直線的に配置した光溢れる空間は若人の健康を育む有益な場として設計した。

内・外装の色彩計画は画家の城戸わこ氏が担当され、若者の生活の場に相応しい斬新なデザインとなっている。また、1階のロビー・ホールに飾られた同氏の絵画が比類なき特上な雰囲気、寮生の出入りを見守っている。

(仙田 篤／生活工房 仙)



1階 平面図





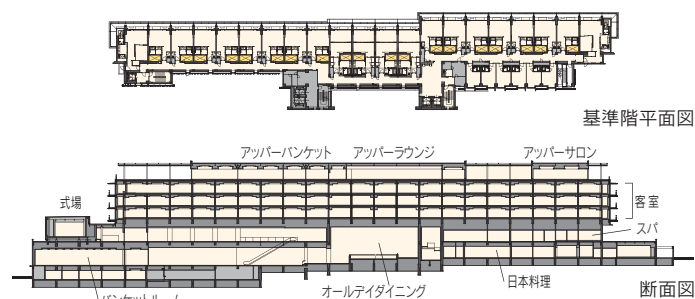
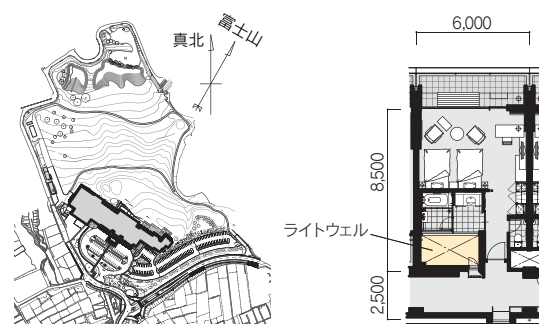
日本平ホテル

建 築 主 株式会社日本平ホテル
設計・監理 日建設計
施 工 木内建設

風景美術館・日本平ホテル

日本平ホテルは、日本百景の一つ静岡市日本平に建つホテルである。標高250mの高台に位置するホテルから望む富士山や駿河湾の風景は、絵画鑑賞の仰角俯角に等しいことから「風景美術館」と称される。ゲストがシーンに合わせて風景を楽しめるよう、2階のエントランスフロアを中心に、上階を80室の客室のあるプライベートゾーン、下階をレストランや宴会場などパブリックゾーンとする明快な構成とした。エントランス正面にワイドな吹抜空間を設けるガラススクリーンを通して近景の芝生庭園、駿河湾、遠景の富士山が重層する大絵画を鑑賞できる。間口6mの客室は、富士山を正面に望むベッドレイアウトやデスク配置、手摺が眺望を遮らないようレベルを下げたバルコニーとすることで、開放感ある眺望を実現した。インテリアデザインは「和」をテーマとし、左官の大壁面や低めのソファなど、素材、家具、置物に和のエッセンスを取り入れることで、富士山の眺望と共に日本の美意識を感じる空間づくりとした。環境面では「環境共生ホテル」を目指し、既存樹木はほぼ全て保全、客室水回りにも自然光を導くライトウェルや建物長さを利用したクールヒートトレンチの採用、ゲストエリア照明のLED化などにより、CASBEE静岡で初の「Sクラス」を達成した。ホテルオーナーの環境に対する理解と、地元密着型ホテルとしての想いが、静岡の自然・風土にあったホテルを実現させた。

(村井達也・加古藤郁／日建設計)





客室



式場



大宴会場



所在地——静岡県静岡市清水区馬走1500-2
敷地面積——75,769.13㎡
建築面積——6,153.43㎡
延床面積——18,678.62㎡
構造規模——RC造（一部S造・一部SRC造）
地下1階、地上6階
工期——2011年5月～2012年8月
最寄駅——JR静岡駅、JR清水駅
撮影——エスエス名古屋
Jimmy Cohrsen
（客室、式場、大宴会場）



オールデイダイニング



名古屋クロスコートタワー

名鉄名古屋駅から泥江町交差点に伸びる泥江町線に面して建つオフィスと商業、クリニックの複合ビルである。

元は「中経ビル・第2中経ビル」が建っていた敷地に、北隣にある「ウインクあいち」との総合設計制度利用による共同改築により、容積率や高さ制限の緩和を受けて「名古屋クロスコートタワー」として生まれ変わった。

1階はオフィスエントランスと物販店、2階はクリニック、3～17階は中部経済新聞社の本社をはじめとするオフィスゾーンとなっている。

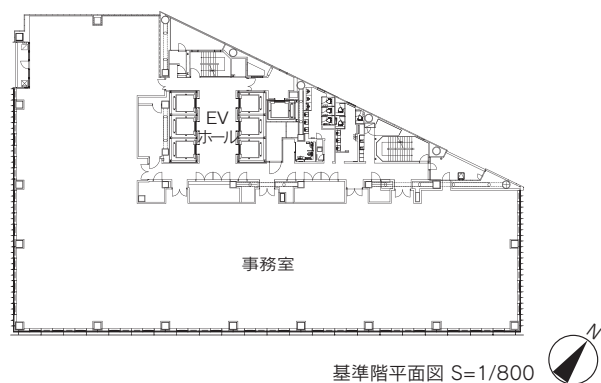
また、地下1階は「ミッドランドスクエア」を介して名古屋駅と接続し、「ウインクあいち」や豊田第二ビル（将来）へとつながる「チカマチラウンジ（飲食ゾーン）」として、オフィスワーカーや市民の利便性を高めている。

不整形な敷地形状に対して、基準階のオフィスは、三角形平面のコアとL型のオフィスによる構成で、オフィスは奥行き15mの無柱空間として、大部屋の一室利用から最大5テナントに分割できるフレキシビリティの高い計画としている。

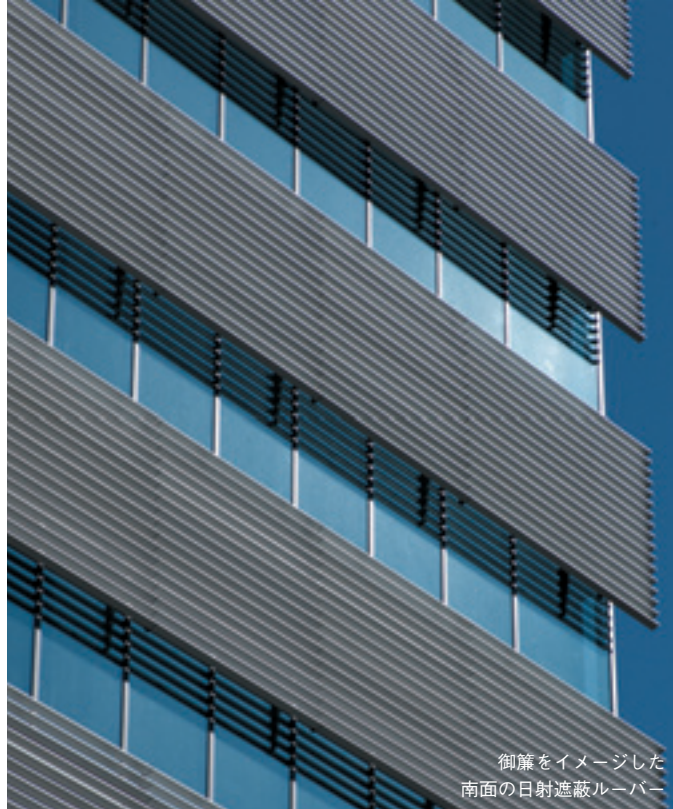
外観には「地球環境への取り組み」として、空調エネルギーの削減をはかる日射遮蔽のため、南側は水平、東西面は縦型のアルミルーバーを設え端正な佇まいを心掛けた。また、緑の少ない名駅地区にあって、建物は歩道より6mセットバックし、並木や歩道を設え、豊かな街並み創出の一助となっている。

名古屋クロスコートタワーが、これからビジネスゾーンが拡大していく名古屋駅東側の街区のパイオニアとなり、豊かな街並みに寄与することを信じている。

（若林 亮・富田昌志／伊藤建築設計事務所）



基準階平面図 S=1/800



御簾をイメージした
南面の日射遮蔽ルーバー



オフィスの窓周り
水平ルーバーが夏の日射を遮る

建 築 主 株式会社中部経済新聞社
名古屋鉄道株式会社
東和不動産株式会社
設計・監理 伊藤・日建 設計共同企業体
施 工 鹿島建設 中部支店

所 在 地——愛知県名古屋市中村区名駅四丁目
敷地面積——2,805.05㎡
建築面積——1,705.52㎡
延床面積——30,117.66㎡
構造規模——S造（一部RS造）、
地上17階、地下2階、塔屋2階
工 期——2010年4月～2012年6月
最 寄 駅——名古屋鉄道 名古屋駅
撮 影——エスエス名古屋



ミッドランドスクエアからつながる
「チカマチラウンジ」



エントランス・荷捌き



外観 北側



事務室



屋上緑化・太陽光パネル



シーキューブ株式会社 二瀬ビル

建 築 主 シーキューブ株式会社
設計・監理 伊藤建築設計事務所
施 工 大成建設

所 在 地——愛知県名古屋市中村区二瀬町40
敷地面積——2,147.23㎡
建築面積——710.28㎡
延床面積——2,063.44㎡
構造規模——S造、地上3階
工 期——2011年8月～2012年6月
最 寄 駅——名古屋市営地下鉄東山線 岩塚駅
撮 影——エスエス名古屋



外観 西側

情報通信建設事業を展開するシーキューブ株式会社のメディアネットワーク事業本部の移転統合による建替工事である。敷地内の既存事務所棟を使いながら限られた範囲で最大の床面積を確保し、さらに40台を超える駐車台数の確保が顧客要望であった。「敷地形状を最大限生かしたエコ・セキュリティビル」をコンセプトに掲げ設計を行った。建物形状としては既設事務所棟を避けたL字型平面とすることで広い1フロアの事務室を形成した。1階車路はピロティ形状とし、プラットフォームを設けることで雨天時にも利用しやすい荷捌きとした。2階は事務室機能を集約し、最新のICTシステムを駆使した効率の良いスマートなオフィスとして計画した。3階には事務室、大会議室、倉庫・書庫を配置した。事務室に隣接している倉庫・書庫はOAフロアとしており、将来の業務拡大に併せて事務室を拡張できる計画とした。

セキュリティについては敷地入口の門をはじめ、1階玄関や各事務室にはスマートフォン等を利用した堅牢な入退室管理システムを構築した。

環境配慮としては、空調機のデマンド監視、明るさセンサーによる自動調光など電気使用量の把握と削減に取り組んでいる。他には複層ガラスの使用、太陽光発電設備の設置、屋上緑化、雨水利用など積極的に採用しており、環境配慮にも特化したビルとしている。

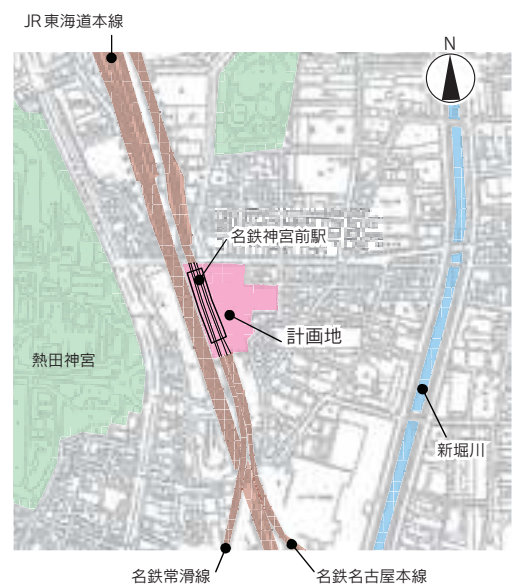
(渡邊國雄・山本貴史／伊藤建築設計事務所)



西側の外観



東側の外観



名古屋鉄道 鉄道センタービル

建 築 主 名古屋鉄道
設計・監理 日建設計
施 工 大成建設

熱田神宮の玄関口である名鉄神宮前駅に立地する鉄道事業の中核を担う建物である。

計画地は、街区整備された南北軸の街並みと新堀川沿いに点在する不正形な道路による住宅地の接点に位置する。将来にわたる順次建替えと動線確保を視野に入れて、限られたスペースに建物を南北軸に配置した。

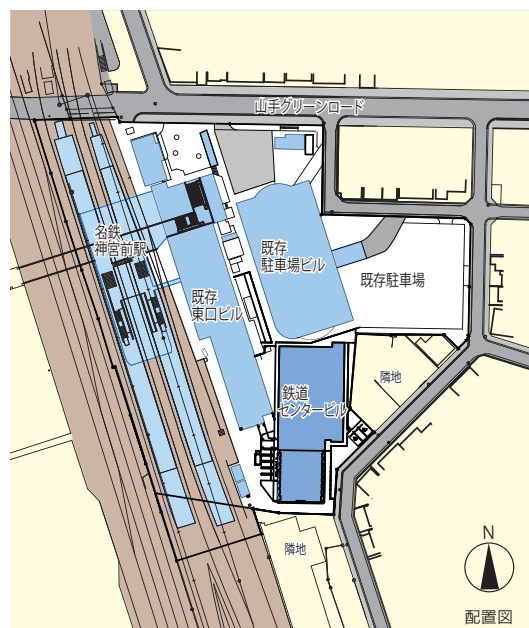
既存の駅務機能の維持と連携を確保しながら、管理部門と、運転、駅務、保線の運行部門、厚生施設など鉄道事業に関わる多様な機能の高効率な一体化を実現するとともに、フレキシブルな事務スペースを設置した。

BCP（事業継続計画）のため、制振構造による高い耐震性、情報の高度化とセキュリティの確保、災害に強く信頼性の高い計画とした。西面の影の深いPC板や横庇、複層ガラスによる負荷抑制、自然換気窓や縦穴換気、屋上緑化などの省エネルギー対策を行い、非常時におけるエネルギーの抑制を図った。

西面の研ぎ出しPC板は、鉄道駅の都市スケールに合わせ、階高の異なる機能の一体化を意図するとともにシンプルな外観とし、東面の外観は既存住宅地のスケールに配慮した。また、熱田の森を望む屋上庭園に社員相互のコミュニケーションスペースを設けた。

（葛原定次・河辺伸浩／日建設計）

所 在 地——愛知県名古屋市熱田区三本松町18-1
敷地面積——17,536.85㎡
建築面積——1,438.78㎡
延床面積——9,359.93㎡
構造規模——S造、地上7階
工 期——2011年3月～2012年4月
最 寄 駅——名古屋鉄道 神宮前駅
撮 影——三輪晃久写真研究所



熱田の森を望む屋上庭園



エントランスホール



制振装置の見える大部屋の事務スペース



ORE錦二丁目ビル

建築主 オリックス不動産株式会社
設計・監理 株式会社大林組名古屋支店一級建築士事務所
施工 株式会社大林組名古屋支店

市況の変化に対応可能なオフィス

名古屋の繁華街「錦」とオフィス街「丸の内」のはざまに建つ、基準階にテナントオフィス、1階に店舗を配したオフィスビルである。土地柄様々なテナント需要が見込まれることから、小さな貸室分割単位の設定、車寄せや大容量の機械式駐車場、カーシェアリング等、市況ニーズの変化にフレキシブルに対応可能な仕様を設定している。

コンカレントエンジニアリングによる合理化

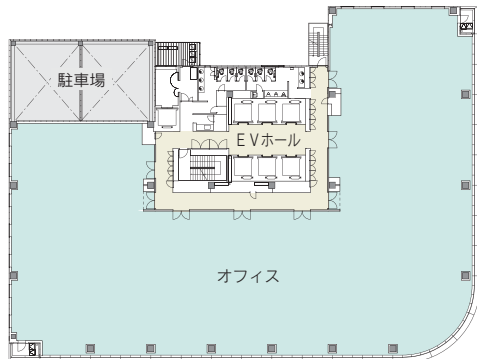
平面計画は、コアを敷地中心に、東・南・西の3面を取り囲むようにオフィスを配置し、ワンフロア貸しと細かい分割貸し双方の利用に対応している。建物形状は天空率シミュレーションにより最大限を確保。交差点に面した曲面は斜線規制緩和においてもっとも効率的な形状であるとともに、周辺地域に対してやわらかな表情をつくりだしている。

外装はPCa版底とアルミサッシのみを組み合わせたシンプルな構成であるが、日射制御による省エネルギー機能、火災時の層間延焼防止機能の他、生産部門による合理的施工法や生産モジュールまでの徹底した検討を経た、合理性と構成要素のミニマル化を追求したディテールとなっている。

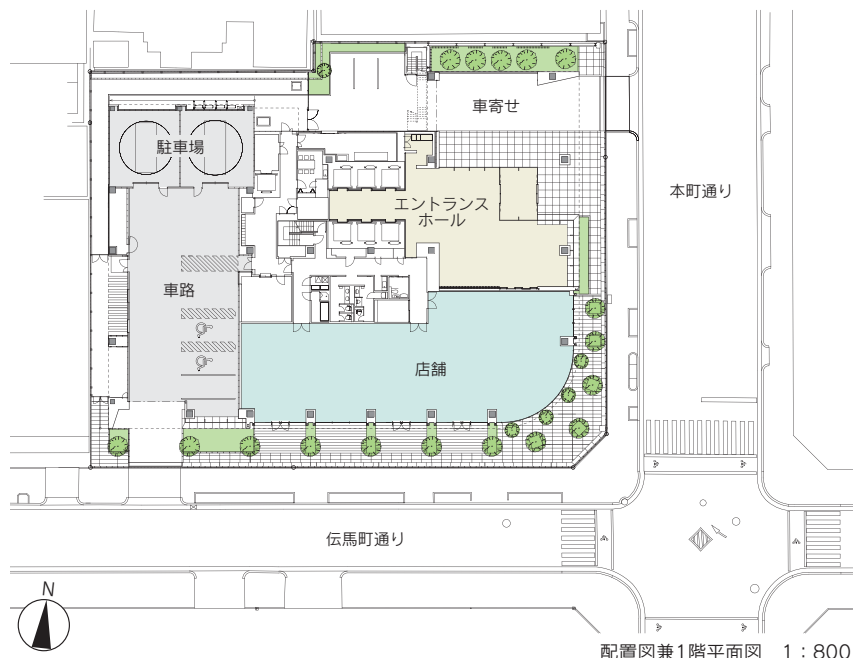
ビジネスシーンに自然のぬくもりを

内外装随所に自然素材を用い、ビジネスシーンにあってもぬくもりを感じ取ることのできる計画とした。1階部分は内外装とも石や木などを組み合わせ、ランドスケープと一体的なアースカラーのデザインとし、基準階のシックな外装と対比的に扱っている。1階から基準階オフィスに続く共用部、エントランスホールやE Vホール、トイレ等においても木目調素材と金属などの硬質な素材を組み合わせでデザインすることで、高級感を保ちつつ、あたたかみのある空間としている。

(一瀬直樹・岩崎大祐／大林組)



基準階平面図 1:800



配置図兼1階平面図 1:800



外観夜景



エントランスホール



基準階EVホール



基準階オフィス

所在地 名古屋市中区錦二丁目4-15
敷地面積 2376.41㎡
建築面積 1656.62㎡
延床面積 20976.33㎡
構造規模 S造、地上13階、塔屋1階
工期 2011年7月～2012年8月
最寄駅 地下鉄桜通線 丸の内駅
撮影 上田新一郎 (エスエス名古屋)



東面外観



地下1階車寄せ



3階北エントランス



講堂棟と相撲場上屋

建築主 神宮司廳
設計・監理 大林組 名古屋支店 一級建築士事務所
施工 大林組 名古屋支店

神宮会館 講堂棟

三重県伊勢市の神宮会館は、「お伊勢まいりの宿」として多くの方々に親しまれている。敷地内には、宿泊施設のほか神宮相撲場・神宮弓道場・神宮ばら園があり、各種会合・研修・スポーツ合宿などにも利用されている。国道23号線に面した敷地の東側は国道を隔てておかげ横丁が広がり、南東には伊勢神宮内宮がある。

第62回神宮式年遷宮記念事業のひとつとして建て替えられたこの講堂棟は、最大1000人が収容できる大講堂に、会議室、応接室を備えた施設である。

神宮にふさわしい「和」をデザインモチーフとし、神宮会館の顔となり親しまれる講堂棟を目指した。

建物正面の外観は「鳥居」を意識したデザインとした。特殊化粧型枠による打放コンクリート、障子をイメージした水平フィン付きカーテンウォール、外観を特徴づける簾状の木ルーバーの構成により、落ち着きと開かれたファサードで人々を迎える。屋根は1.5寸勾配の切妻屋根を載せた平屋根を採用し、敷地内の建物群から際立たせる一方、シャープな深い軒を設け周囲の景観と「和」の調和を図っている。

大講堂は、避難安全検証法による内装制限の緩和により、木材をふんだんに用いて、神宮の森を感じる「木の講堂」とした。通常、大講堂は講演や評議会に使用するため床は平土間となっている。天井は3段構造の折上天井とし、両側面のハイサイドライトからは木ルーバーを通して柔らかな自然光を取り込んだ。さらに、残響時間及び室内騒音測定の見直しを行い、十分な音響性能を有した空間とし、あらゆる式典に対応できるような舞台設備を設けた。

また、講堂棟に隣接する相撲場の屋根を中心とする整備も行った。ここでは、毎年大相撲の奉納相撲が行われる。元来の土俵を覆うだけの屋根を撤去、土俵と観客席部分を全て覆い、上部トップライトから光を取り入れる八角形の大屋根とした。

(吉田悠佑／大林組)

所在地——三重県伊勢市宇治中之切町152
敷地面積——25,491.30㎡
建築面積——1,686.22㎡
延床面積——3,718.59㎡
構造規模——SRC造（一部S造）、地上3階、地下1階
工期——2011年12月～2012年11月
最寄駅——近鉄鳥羽線 五十鈴川駅
撮影——加藤俊史（エスエス名古屋）



地下1階玄関ホール



1階ロビー



3階応接室



1階大講堂



名古屋市医師会・急病センター

設 計 日建設計
施 工 清水建設

所 在 地 愛知県名古屋市東区
敷地面積 1,249.95㎡
建築面積 924.89㎡
延床面積 5,674.33㎡
構造規模 S造、地上7階
工 期 2010年7月～2012年5月
最 寄 駅 名古屋市営地下鉄 新栄町駅



東海労働金庫 金山支店

設 計 安井建築設計事務所
施 工 熊谷組

所 在 地 愛知県名古屋市中区正木三丁目1309番
敷地面積 1,197.57㎡
建築面積 627.21㎡
延床面積 1,330.26㎡
構造規模 S造、地上3階
工 期 2011年12月～2012年7月
最 寄 駅 名古屋鉄道名古屋本線 金山駅



浜松信用金庫高丘支店

設 計 日建設計
施 工 中村組

所 在 地 静岡県浜松市中区
敷地面積 2,672.44㎡
建築面積 861.75㎡
延床面積 958.24㎡
構造規模 RC造、一部W造、S造、地上2階
工 期 2011年8月～2012年4月
最 寄 駅 JR浜松駅



大口町立大口南小学校

設 計 東畑建築事務所
施 工 第1工区・校舎棟工事：安藤建設
第2工区・屋内運動場工事：松岡建設
周辺道路整備工事：中日保安設備
既設校舎等解体工事：佐伯綜合建設
第3工区・プール等工事：榊原建設
第4工区・グラウンド整備工事：丸周建設

所 在 地 愛知県丹羽郡大口町奈良子三丁目
敷地面積 15,778.12㎡
建築面積 4,715.91㎡（校舎・屋内運動場）
504.52㎡（プール附属棟他）
延床面積 7,696.30㎡（校舎・屋内運動場）
476.15㎡（プール附属棟他）
構造規模 校舎・屋内運動場：RC造（一部SRC造・一部S造）、地上2階、地下1階
プール附属棟他：RC造・S造、地上1階
工 期 2011年2月～2013年2月
最 寄 駅 名古屋鉄道 柏森駅



いこいの森 デイケアセンター別館

設 計 竹中工務店設計部
施 工 竹中工務店

所 在 地 三重県津市河芸町東千里15-1
敷地面積 2,340.19㎡
建築面積 871.38㎡
延床面積 814.16㎡
構造規模 S造、地上1階
工 期 2012年3月～2012年9月
最 寄 駅 近畿日本鉄道名古屋線 千里駅



松坂屋久屋南パークテラス

設 計 竹中工務店設計部
施 工 竹中工務店

所 在 地 愛知県名古屋市中区栄3-31-10
敷地面積 235.23㎡
建築面積 209.43㎡
延床面積 397.19㎡
構造規模 S造、地上2階
工 期 2011年6月～2011年9月
最 寄 駅 名古屋市営地下鉄名城線 矢場町駅



森林公園ゴルフ場練習場受付棟

設 計 ウッドフレンズ
施 工 ウッドフレンズ

所 在 地 愛知県尾張旭市大字新居5182-1
敷地面積 2,398,804.44㎡
建築面積 163.96㎡
延床面積 157.34㎡
構造規模 W造、地上1階
工 期 2012年7月～2012年9月
最 寄 駅 名古屋鉄道瀬戸線 三郷駅



大府市立大東小学校

設 計 安井建築設計事務所
施 工 校舎建設工事：奥村・愛知特定建設工事共同企業体
屋内運動場建設工事：岐建 大府営業所
プール建設工事：愛協産業
敷地造成工事 通学路安全対策工事
グラウンド等整備工事 遊具設置工事：花井組
屋外倉庫・トイレ等新築工事：愛知工務店
歩道橋設置工事：大天工業

所 在 地 愛知県大府市大東町2-61
敷地面積 24,056.73㎡
建築面積 5,595.02㎡
延床面積 10,912.64㎡
構造規模 RC造・一部S造、地上3階
工 期 2010年10月～2012年2月
最 寄 駅 JR大府駅

“東海の風”

昨年暮れの衆議院選挙で政権交代がなされ、景気回復に向かうのではと期待しています。建築業界においても公共事業投資など動きが見えてきました。ただ、それに伴い材料費等の高騰を懸念しています。こうした中、去る1月22日（火）に建築工事実務講習会を開催し、昨年を上回る41名の受講者の参加を得たのは建築工事に携わる皆さんの景気回復に対する準備の表れだと思います。また、去年はこの4月の一般社団法人への移行に向けて本部とのより一層の意見交換をした1年でもあったと思います。支部事業報告及び次年度事業予定の報告により支部会員の地域づくりに対する思いを少しは理解して頂けたのではないかと思います。

さて、「建築と社会」東海特集は昨年からはまった新シリーズ「建築文化にみる遺伝子」と題した戦前、戦後の東海地方の文化を建築・街・都市といった切り口でそれぞれの分野で携わる人、あるいは市民の立場で考察する企画です。今回は、「三重県の建築文化に見る遺伝子」を取り上げ特集しています。三重県の伊勢神宮では式年遷宮に向けて準備が粛々と進められています。20年ごとの文化の引き継ぎはシリーズのテーマ「建築文化にみる遺伝子」そのものだと思います。

支部が管轄する地方文化を幅広く知って頂き街づくりに役立てて頂ければ幸いです。

最後に、本特集号にお忙しい中時間を割いてご執筆頂きました各分野の先生方、地域の皆さん、そして特別編集委員会の委員の皆さんに改めて感謝致します。

（東海支部特別編集委員会委員長 福田泰造）

■三重の建築文化にみる遺伝子

先人たちの夢見た空間～三重をつくった地域の建築家・技術者～／菅原洋一

みえの歴史街道を活かした取り組み／三重県環境生活部文化振興課

「せんぐう館」の設計にかかわって／栗生 明

「悠久の杜・標せ平成の匠のこころと技」～伊勢神宮外宮神楽殿での試み～／宇野康則

伊勢神宮と式年遷宮／飯田喜四郎

■東海の建築：架構

～小断面の木部材を織り上げ大きな空間をつくる「木に包まれた心地よい居場所づくり」～

新城市立黄柳川小学校／東畑建築事務所

～世界最大のプラネタリウム球体を浮かせる～

名古屋市科学館／日建設計

～ヴォールト屋根架構のスモールバンク～

瀬戸信用金庫藤が丘出張所／竹中工務店

～複合構造によるオープンワイドな大開口～

T Gate House／安井・タキモトアーキテクツ設計共同体

三重の建築文化に見る遺伝子

先人たちの夢見た空間 ～三重をつくった 地域の建築家・技術者～

三重大学大学院教授
博士(工学)

菅原洋一

1952年 秋田県生まれ。
1975年 名古屋大学工学部建築学科卒業、同大学院を経て、三重大学工学部建築学科助手。同大学地域共同研究センター（現社会連携研究センター）助教授、同大学附属図書館研究開発室教授を経て現職。
研究分野は日本建築史、保存修景学。
共著『藤堂藩の研究』（清文堂、2009）、『地域社会の文化力』（晃洋書房、2009）、『上野市史文化財編』（上野市、2004）、『三重県史建築編』（三重県、2003。）他

■三重県の近代化

三重県域には、近世には津藩など八つの藩と、紀州藩領・天領・伊勢神宮領が分立していた。これらの分合や統廃合を経て現在の三重県が成立したのは、明治9（1867）年のことである。近世の三重県は、伊勢商人の全国的な展開や、各地からの伊勢参宮、東西日本を結ぶ水運の中継機能などがあいまって、国土の中でも一定の結節点としての位置を占めてきた。

しかし、明治維新後、三重県は国家政策の重要拠点と位置付けられることはなく、社会と産業の近代化の過程において、国の果たした役割は極めて限定的なものに過ぎなかった。明治政府による欧米の近代技術の三重県への導入例としては、わずかに工部省灯台寮による伊勢湾口の安乗埼（明治5／1872年）・菅島（明治6／1873年）への二つの灯台設置や、明治末に竣工した木曾三川の分流工事を挙げることができるに過ぎない。安乗埼・菅島の灯台は英国人技術者ブラントンの指導監督の下に進められ、材料となる煉瓦の製造も、ブラントンの指導によって、近隣の渡鹿野島で行われるなど、一時代を画するものであったが、施設の特異性や市街地から遠く離れた立地もあいまって、その波及効果は局所的なものに留まった。

結局、三重県の近代化は、多くの県と同様に、民間への指導を中心とする県の勸業策と、各地の素封家による自然発生的な営みの結果として緩やかに進展を遂げていく。県域内には旧藩の政治経済拠点を継承した中小都市が分散し、ほぼ郡単位の中心都市として機能している。これらが鉄道や道路で連結される分散型の地域構造が、明治以降確立していくのである。

国土の幹線として明治22（1889）年に全通した東海道線は、鈴鹿峠を避けて関ヶ原経由とされたため、本県は全国的な交通幹線網から外れることとなった。県内都市を結ぶ鉄道の建設はこれに対する危機感などから比較的早く進み、明治30（1897）年には参宮鉄道が、翌31（1898）年には名古屋―大阪間の第二の鉄道となる関西鉄道が開業している。また、大正期には軽便鉄道の整備がめざましく進み、

昭和5（1930）年には参宮急行と大阪電気軌道によって大阪―山田間が全通している。

近代建築は、こうしてネックレス状に連鎖した中小の都市を中心に定着していったが、中でもとりわけ特色ある進展を見せたのは、県庁所在地としての津、伊勢神宮を控え参宮者で賑わった伊勢（宇治山田）、港湾を基盤に紡績業を中心とする近代産業施設の展開した四日市、伊賀の中心都市である上野の4都市である。

■活躍した建築家たち

建築関係者が主に活動するのも、この4都市であり、ここに建築技術者が在籍する拠点も形成された。とりわけ三重県施設の営繕を行う三重県、式年遷宮を担当する造神宮使庁、神宮の定常的営繕を担当する神宮司庁、工場施設の営繕を行う東洋紡績が、有力な技術者集団を形成した。

一方、主要な県外の個別建築家としてはブラントン、片山東熊、伊東忠太、木子清敬、コンドル、大江新太郎、鈴木禎次、吉田鉄郎、久野節などが挙げられ、それぞれ次のような建築に関わっている。



写真1 菅島灯台官舎（現明治村）

ブラントン	安乗埼灯台（明治5年） 菅島灯台（明治6年 写真1）
片山東熊	農業館（明治38／1905年） 徴古館（明治42／1909年）
伊東忠太	神宮臨時遷宮（明治33／1900年） 神宮司庁舎（明治36／1903年） 俳聖殿（昭和17／1942年）
木子清敬	神宮司庁舎（明治36年）
コンドル	諸戸精六郎洋館（大正2／1913年）
大江新太郎	川喜田久太夫邸（大正3／1914年） 神宮式年遷宮（昭和4／1929年） 賓日館改装（昭和戦前）
鈴木禎次	諸戸精太郎洋室（大正6，7年）

吉田鉄郎 山田郵便局電話分室
(大正12／1923年)
久野節 宇治山田駅 (昭和6／1931年)

ここで生まれた建築は、今日も現存して三重の個性となっており、これらの優れた建築を創造した、建築家の寄与は大きい。しかし、以下では主に、このような三重県にあって地域の現実に向き合い、格闘して地道に建築をつくってきた建築家・技術者を素描することとしよう。

■伊藤平左衛門

明治期における三重県への洋風建築技術の伝達の経路として、伊藤平左衛門（文政12／1829年～大正2／1913年。旧名平右衛門。明治12／1878年九代平左衛門を襲名。写真2）の果たした役割は大きい。伊藤平左衛門は代々堂宮大工の家系を継ぐ名古屋の有力な大工棟梁で、父八代平左衛門の下で技術を学び、さらに東京で様々な洋風建築を視察研究した。明治期再建の巨大な東本願寺大師堂の棟梁として活躍するなど、伝統的な社寺建築にも優れた技量を発揮したが、三重県に特に影響を与えたのは、洋風建築の先駆者としての伊藤であった。伊藤は、洋風建築としては明治8（1875）年竣工の静岡県見付学校建築工事を手掛け、さらに三重県庁舎建築に当たっても参考にされた愛知県庁舎、ついで三重県庁舎などの大規模木造建築を手掛けている。また、三重県下では県庁舎以前にも、洋風の三重県師範学校（明治11／1878年 写真3）・三重県医学校（同年 写真4）の建築工事を行っていた。



写真2 伊藤平左衛門
（「近代名士之面影」
国立国会図書館近代デジタルライブラリー）



写真3 三重県師範学校



写真4 三重県医学校

中でも、三重県庁舎（写真5）は三重県最初期の大規模な洋風の建築で、華やかな表情を持ち、地域に圧倒的な影響を与える存在であった。町や村で洋風意匠の施設の出現が目立ってくるのは、この県庁舎竣工以後のことである。

清水義八を始め、この建設に参画した地元技術者や大工にとっても、三重県庁舎は優れた洋風の建築を学ぶ恰好の機会となった。その後、三重県営繕組織の技術者の中にも、信太悦蔵・二宮竹次郎のように、「愛知県名古屋市伊藤建築工師二就キ建築学修業」、「名古屋市松重町帝室技芸員伊藤平左工門氏二就キ建築学及技術ヲ練修シ」と、伊藤から「建築学」・「建築技術」を習得した後に採用される者もいた。伊藤は三重県の建築近代化の出発点に位置し、その後の歩みを方向付ける役割を果たしたのである。



写真5 三重県庁舎（現明治村）

■清水義八

清水義八（写真6）は明治期の県施設のほとんどに関与した技術者であり、弘化3（1864）年、久居藩工匠頭で「腕の磯次」と俗称された清水磯次正直を父として生まれた。磯次は嘉永元（1848）年再建の久居藩御殿の設計を行ったとされる。また、2人の弟はそれぞれ、高田本山専修寺棟梁、町棟梁と伝える。清水の三重県出仕は明治9年であるが、それ以前に清水が関与したと考えられる建築はいずれも明治3（1870）年の久居藩御内邸や久居千手院庫裏で、ともに旧藩主久居藤堂家関連の建築であった。旧藩の作事方に属した父磯次の縁故による事が推測できよう。

清水は三重県に出仕後、明治11年には営繕を担当する第三課土木掛となり、明治34（1901）年までの三重県での建築活動が始まる。その初めに関わった三重県庁舎は、清水のその後の技術者人生を方向付けるものとなった。ここで清水の果たした役割は明確ではないが、清水が現場に常駐し、先述の伊藤平左衛門を初めとする請負人との工事についての連絡調整を行い、監督に当たった事は明らかである。また、仕様の詳細な決定についても清水の関与が推測できる。いずれにせよ県庁舎建築工事への参加が、清水にとって、洋風建築要素を導入した大規模な建築工事を経験する機会として重要な意味を持つものであった。

その後、清水は三重県庁舎以来の県施設営繕に関与した古参の技術者として、県会議場・県立学校・郡役所・警察署・監獄など事実上、ほとんどの県施設の営繕に設計ないし総轄者として関与し、営繕組織を主導する役



写真6 清水義八

割を果たした。この中で特に清水の資質が発揮されたのは、明治20（1887）年竣工の三重県尋常師範学校（写真7）や、明治33（1900）年に3校同時に竣工した同意匠の第二・第三（写真8）・第四中学校など、県庁舎の系譜を引く洋風意匠の学校施設である。これらはいずれも下見板張と上下窓の単純な外壁を基本とし、中央に突出する玄関ポーチの妻飾り、環珞飾りを施したアーチなどによって、効果的に軽快な印象を与える外観を達成している。

清水はこの第二・第三・第四中学校を最後に、明治34年4月に「先年来多病ニシテ昨今二至り一層病重ク勤務難堪」とする辞職願を提出し、程なく辞職する。当時は、津での第九回関西府県連合共進会（写真9）開催が計画されていたが、このための華やかな施設の計画は清水には負担となるものであったのであろう。清水の辞職後、このために赴任したのは佐藤功一であり、この辞職は三重県の建築技術者が、経験技術者から学校出身者に交代する状況を象徴的に示すものであった。

三重県辞職後、清水は健康を理由とする辞職にも関わらず山梨県に招かれ、明治35年まで山梨県立学校建築設計工事嘱託員として第二高等女学校・第二・第三中学校に關与した

と伝えられる。また、三重県内でも宇治山田市役所や松阪第一尋常高等小学校増築などに關与している。

清水の關わった建築は、いずれも木造である。和風・洋風意匠の双方があるが、ともに実用的、経済的、現実的な性格を強く示している。県内各地の市街地の好立地に建てられる県施設という性格上、それらの施設は町や村にも刺激を与え、地域における建築の近代化を直接間接に促すものとなった。

■佐藤功一

佐藤功一（写真10）は明治11年に栃木県で生まれた。明治36（1903）年に東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し、同年、三重県技師として赴任している。明治34年までに在職した清水義八と入れ替わるような赴任であった。

当時は日露戦争のため政府関係一般事業が抑制され、建築界も不況に陥っていた時期であり、東京を離れた三重県への赴任は就職難に遭遇しての事であった。一方、三重県では第九回関西府県連合共進会を準備中であり、この建築施設を総轄する建築技術者が求められていた。第九回関西府県連合共進会は津駅西の偕楽公園の一体と柳山を会場とするもの

で、三重の近代化に拍車を掛けるものとなることが期待されていたのである。

佐藤はここで本館・奏樂堂・参考館（写真11）・優待所・時計塔などの施設整備を行う。

「第九回関西府県連合共進会報告」の紹介文には「四千坪に達する建築、悉く正員佐藤工學士の経営によりて成り」と記されている。大熊喜邦はこれについて後に「其の當時の通信によると可なり面白く仕事が出来た様で、奏樂堂・参考館・優待所・時計塔が最も気に入った様である。これが建築界に佐藤君が踏み出した恐らくは初めてであったらう」と評している（『佐藤博士と建築界』『建築雑誌』昭和16年11月）。

その後は、三重県女子師範学校・日本赤十字社三重支部・県庁構内米穀検査所などの設計に關与した。在職中の佐藤は、いつも英語で部下を「ボーイ、カム、イン」と呼んで用事を言いつけた。技術室では片端から製図を直し、また、世話好きで若い人の面倒を徹底的にみたという。明治41（1908）年には佐藤の提出した予算案が県会で否決されたので、「私は建築に於ては三重県の第一人者である、その私の出した議案が本会に於て反対された以上私は本県に職を奉じているわけにはいか



写真7 三重県尋常師範学校



写真8 三重県第三中学校（現上野高等学校）



写真9
第九回関西府県連合共進会第一会場配置図



写真10 佐藤功一
（「卒業記念写真帖（大正11年3月）」
お茶の水女子大デジタルアーカイブス）



写真11 第九回関西府県連合共進会参考館

ない」として、職を辞したと伝えられている。(長島重信「若き日の佐藤功一博士」『三重の随想』)

関東育ちの佐藤は三重には必ずしも馴染めなかったようで、津の町について、次のような印象を述べている。

「学校を卒業してからは、長く伊勢に居たが、津の町と云うものはダラ^〱に長い丈けで、私には何等の印象に残って居ないのである。併し此ダラ^〱に長いと云ふ事が伊勢の参宮街道の町の特性であつて、それは動物の腸が食物の栄養分を充分に吸収するために長く出来て居ると同じく、参宮道者達の財布をねこそぎ絞るために斯う云ふ風に出来て居るのではなからうか。殊に其の長い街の両端に郭が置かれてあると云ふ事は益々此の感じを深くさせる。」(佐藤功一「日本及び世界の都市の印象と記憶」『佐藤功一第三巻』昭和16年)。

佐藤には、漱石の『坊ちゃん』の主人公を彷彿とさせる心象風景があったのであろうか。しかし、佐藤の建築家としての出発の地はこの三重県であったのである。

佐藤は辞職後は宮内省に転じるが先任者木子幸三郎との不仲から、短期間で退職し、早稲田大学に転じた(森井健介「人物風土記(第十回) 佐藤功一先生」『建築士』昭和34年)。以後、早稲田の建築教育の主軸となり、さらに活発な設計活動を行うこととなる。

■大富克己

大富克己は、大正4(1915)年に名古屋高

等工業学校建築科を卒業し、一時期中国大陸に渡ったが、大正13(1924)年頃までに三重県土木課営繕係に採用された。

当時、三重県では三重県会議場(写真12)の整備計画が具体化し、鉄骨鉄筋コンクリート構造3階建ての施設が名古屋高等工業学校教授の土屋純一の顧問、同校出身の桃井保憲の設計で進められるに及んで、鉄筋コンクリート構造に対応できる技術者が求められたのである。大富の三重県赴任後、間もない時期に、古参の県技術者である岸江九馬三が三重県を辞職しているが、これは伝統的木造建築技術を基盤とする岸江が大富に職を奪われた結果と評されている。

大富は県の勤務の傍ら、日本赤十字社三重支部山田病院(写真13)の囑託として大正12(1923)年から大正15(1926)年にかけて工事の行われた同病院の設計監理にも当たっている。県職員である大富が同病院の設計監理を行っている事は県会で問題とされているが、これに対する土木部長の答弁は次のようなものであった。

「県が大富建築工師大富(原文のまま)を雇い赤十字の仕事させ余計な費用を出して居ると云ふ説は大部分事実が相違して居る。大富工師は名古屋高工出身の人で近來鉄筋混凝土の工事流行の折柄県にその道の人が必要のため相当の人の紹介で採用したが赤十字の方でも山田の病院改築でそう云う人が欲しいから大富工師に囑託したいとのことに公共的の事業であるから顧問の意味で関係はして居るが経費は厳然と区別して居る。これも多少他から

は混淆と見られるが事実には非難の点はない」。

鉄筋コンクリート造の普及期の地方の実情を示す答弁である。

ついで、三重県では鉄筋コンクリート造3階建ての師範学校本館(昭和4年着工)が整備されており、大富はこの建築計画にも関与したと見られる。三重県下に鉄筋コンクリート構造の建築を定着させる役割を果たした技術者であるが、同年頃には三重県を辞職し、千葉県に転居している。

■野田新作

野田新作(写真14)は、明治23(1890)年、山形県で生まれ、明治40(1907)年に山形県立工業学校建築科を卒業した。農林業を営む土地の素封家貝沼家の二男であり、野田姓は後に、鈴鹿郡石薬師村の野田家との婿養子縁組による。工業学校における中等程度の工業教育が本格的に整備されるのは、明治32(1899)年の実業学校令制定を契機としており、野田はこれに基づいて建築教育を受けた最初の世代となる。同年、野田は四日市市に移り住み、途中陸軍名古屋工兵大隊入営期間を挟んで大正元年まで雇、技手として施設設の営繕工事に関わった。その後、陸軍雇を経て、大正3(1914)年から同8(1919)年まで三重県に在職し、三重県師範学校演武館設計監督などを行った。ついで、大正8年から同13年頃まで東洋紡績に在職し、四日市を発祥の地とし、工場新増設が相次ぐ同社の富田工場の施設営繕に関わった。また、同社社長伊藤伝七の寄付による四郷村役場の新築にも関わった。

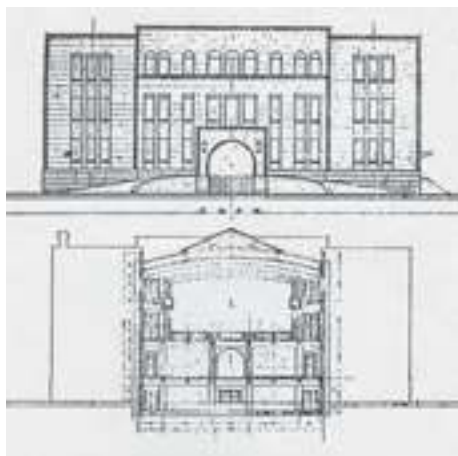


写真12 三重県会議事堂



写真13 日本赤十字社三重支部山田病院



写真14 野田新作

こうした野田の足跡はおぼろげであり、また地味であるが、東洋紡績を退職して、大正13年頃に四日市に開設した野田工務所は、三重県における最初期の建築設計事務所である。三重県では、野田工務所にやや遅れて、大正15年頃には早稲田大学卒業の黒宮五郎が桑名に黒宮建築事務所、津では、大富克己の三重県庁赴任と前後して辞職した岸江九馬三が岸江工務所、宇治山田では工学院卒業の堀崎秋生が堀崎工務所を開設しており、にわかに民間の建築設計事務所が活動を始める事となる。明治20年代以降に民間事務所が活動を始める東京及び大阪に比べ、これはかなりの遅れであるが、これが三重の実情であった。

ここで野田は北勢地域を中心に、学校・庁舎・工場施設・住宅などの地域に密着した実用的建築を手掛けて行く。初期の代表作となる大正15年の松阪町役場は木造モルタル塗2階建てで、半円の屋根窓や弓形屋根の玄関ポーチなどの意匠に特色があり、町内にはこれを模した外観意匠の銭湯もつくられた。鎮国守国神社楽翁公百年祭記念宝物館は鉄筋コンクリート造2階建てで、切妻破風の玄関ポーチ、長押や柱型などで和風を感じさせるものとなっている。

一方、昭和10（1935）年頃からの鉄筋コンクリート造による一連の小学校講堂、四郷・大矢知・千種尋常高等小学校講堂で野田は独自の表現を見出していく。その魁となる四郷尋常高等小学校講堂（写真15、16）は、かつて関わった四郷村役場に隣接する丘の上に建てられた。変形の六角形平面の広間の前後に

それぞれ矩形の玄関と舞台を繋げ、玄関正面には半円形のバルコニーを突出させる。広間部分および玄関部分は鉄筋コンクリート造の外壁を一体に回し、屋根は広間部分を鉄骨トラスによる寄せ棟造、玄関部分を木造トラス組切妻造とする。一方、舞台部分は木造で屋根は木造和小屋組による切り妻造とする。このように構造は全体として、極めて折衷的である。多角形平面を囲む鉄筋コンクリート構造の単純な壁面と軒出の深い勾配屋根で独特の量感的表現を達成している。

その完成を報じる新聞記事は「而してその講堂の様式は耐震大火に最善の注意を払ひ（中略）、且つ収容力に遺憾なきを期すべく本県における最初の建築である六角式の鉄骨コンクリートである。（中略）是れが工事請負者は四日市市住吉町野田新作氏である。（中略）尚ほ講堂の施設は会場を会議室とし階下には玄関控室等を設け（中略）又通風採光にも相当の苦心を払はれている事が窺はれ畢竟東海に誇る理想的の大講堂である。」とされ、野田自身の発言として「着工に先立ち東京、横浜および、京阪地方の各小学校講堂の建築様式を観察近代の建築術の粋各方面から取り入れ斯くて着工したのであるが、完成してみると技術的方面から見ても未だ充分とは云はれない、然し自分としては丹誠籠めて着工したから村民は非常に満足し感激して貰った、誠に耻かしい次第である、自分は今後各位の期待に背かぬ様建築上に一段の研究を為す考へである」と報じる。

野田に対する評価は、その建築が堅実な仕

事がなされて堅固であり、機能的にも十分な配慮がなされている、という評価である。それは旧所員や施工者による、野田の図面の表現の緻密さ、現場監理の厳格さの指摘や、「野田はかねて三重の風土への配慮を強調し、軒出が深く勾配の急な屋根を多用するなど三重の風土への配慮を強調していた」との証言と符合するものであろう。

■終わりに

ここで素描した建築家・技術者は時に矛盾を抱え、時代の流れの中で迷いながらも誠実に仕事を行い、次代に継承して行った存在のように見受けられる。それは賢人という言葉で神格化されるものではない。その弱さや喜びはそのまま我々に受け継がれており、我々にも彼等と同じ血が流れているという思いを持つ。彼等が取り組んだ課題は、今も形を変えて我々の課題となっているのである。

（すがわら よういち）



写真15 四郷村役場（上）と四郷小学校講堂（下）



写真16 四郷小学校講堂内部

みえの歴史街道を 活かした取り組み

三重県環境生活部
文化振興課

■みえの歴史街道

～20以上の街道が行き交う～

三重県は、さまざまな「街道」を通じた歴史・伝統のある文化の豊かな地域である。伊勢参宮などの旅人が行き交った三重の「街道」は、古来、人と人とが出会い、ふれあいの場となるとともに、情報や文化の交流の場でもあった。そしてその交流は、地域の繁栄、経済の繁栄に大きな役割を果たし、三重を作る原動力となっていたのである。

また「街道」には、工芸や文学、食などの文化、さらには旅人に対するもてなしの心やまつり・習慣・民話に至るまで「街道遺産」ともいえる、有形・無形の歴史的な遺物がたくさん残されている。「街道遺産」は、地域のかげがえのない財産であり、さまざまな魅力を放ちながら、それぞれの地域の個性を作り

出している。

この「街道遺産」とその魅力を、地域づくりの資源として活かす試みとして、平成8年3月に、三重県・歴史街道構想策定委員会により「みえ歴史街道構想～むすびのくにづくり～」が策定され、歴史街道フェスタやウォーキングマップ制作などの事業が実施され、その後も、各地域においてウォーキングイベント等のさまざまな事業を展開している。

■まちかど博物館

～館長500人の思いが詰まっている～

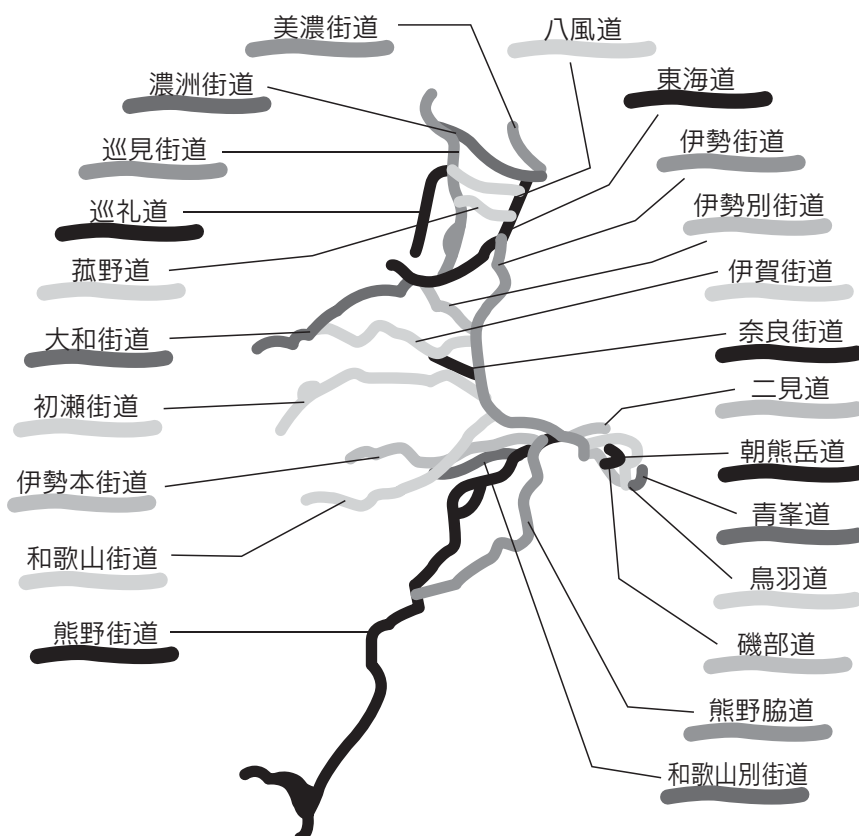
三重県では、市民団体ザ・伊勢講が「伊勢まちかど博物館」を平成5年に設立して以来、平成12年3月に「伊賀まちかど博物館」、以降平成21年3月まで県内10地域でまちかど博物館が設立され、500館以上のまちかど博物館がある。



伊勢本街道 常夜燈



東海道 関の街並み





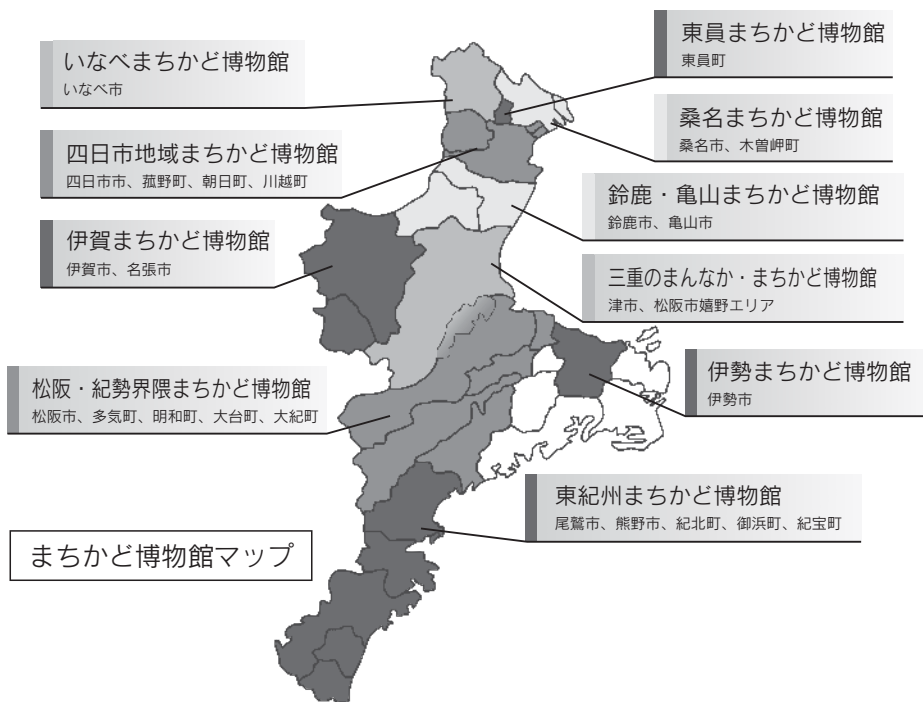
松阪・紀勢界隈まちかど博物館 三忠



伊賀まちかど博物館 世界のかえる博物館



「伊勢ぶらり」トップ画面



「伊勢ぶらり」絵葉書表示画面



「伊勢ぶらり」ウォーキングの様子

まちかど博物館は、今までの「博物館」のイメージにとらわれることなく、コレクションや伝統の技、手仕事などを、仕事場の一角や個人のお宅などで、館長の語りとともに見ることができる新しい形の博物館として、県内各地域で、それぞれの地域のまちかど博物館推進委員会等がその推進に取り組んでいる。

この事業は、地域の歴史的、文化的資産等、それぞれが所有している文化資産を、誰もが見られるようにまちかど博物館として展示、公開することより、その地域の文化に触れる機会を提供し、郷土に愛着を持った人づくりや、圏域を超えて多くの人が訪れたいくなるような地域づくりへつなげることとし、みえ歴史街道構想の波及事業として進められてきた。

平成26年には、新県立博物館の開館が予定されており、開館後は企画展示や情報発信等において、まちかど博物館との連携事業を行う予定である。

■「伊勢ぶらり」アプリシリーズ

～まちの現在と過去が行き交えるアプリ～

三重県では、あこがれの旅「お伊勢参り」をタブレット端末やスマートフォンを使って楽しめるアプリ「伊勢ぶらり」を、平成24年8月29日から提供しており、これまで4000件以上のダウンロードがある。

「伊勢ぶらり」はタブレット端末やスマートフォン等に絵地図等を表示させ、絵地図と現在地図などを切り替えて現在地を確認しながら町歩きを行ったり、GPS機能で絵地図上に現在地を表示させることにより、過去と現在の様子を見比べることができ、さらには絵地図上から文化的情報を得たりすることができるアプリである。

このアプリは、県有の歴史的資料等の活用を目的とし、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所連想情報学

研究開発センターとの共同研究事業として構築し、皇學館大学の教職員や学生、伊勢市教育委員会と連携して制作された。

平成24年11月18日には、このアプリを使ったウォーキングイベントを伊勢神宮外宮周辺で開催し、皇學館大学学生がガイド役を務め、小学校や高校生、年配の方々含め、約50名に参加いただいた。

アプリの入手は、AppStoreおよびGoogle Playから「伊勢ぶらり」で検索し、無料でダウンロード可能であり、今年度中には四日市や伊賀地域、全県版の構築を予定している。

みえの歴史街道・まちかど博物館・伊勢ぶらり等の詳細は「三重の文化」ホームページ
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/>をご覧ください。

三重の建築文化に見る遺伝子

「せんぐう館」の設計にかかわって

栗生総合設計事務所

栗生 明

1947年 千葉県生まれ。
1973年 早稲田大学大学院建築計画修士課程修了後、横総合計画事務所入所。
1979年 Kアトリエ設立、東京大学助手。
1983年 同助手退官、Kアトリエ代表就任。
1987年 栗生総合計画事務所に改称。
1992年 千葉大学工学部建築学科助教授。
1996年 同大学教授。栗生総合計画事務所主宰。
2006年～ 同大学大学院教授。
主な著書
「環境健康都市宣言!!」(2007年、鹿島出版会)
主な受賞歴
1996年 日本建築学会賞 植村直己冒険館
2003年 日本芸術院賞 平等院鳳翔館
2006年 村野藤吾賞
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
2010年 公共建築賞
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

■伊勢神宮

ひとたび神宮の森に足を踏み入ると、
「なにごとの おはしますかは しらねども
かたじけなさに なみだこぼるる」
と詠った西行法師の心情に、時を超えて深い共感を覚える。

この神域に立つ時、「山川草木に神が宿る」とした日本人の自然に対する畏敬の念と、日常生活の中では意識化されずに眠っている、篤い信仰心が揺り動かされ、顕在化するのかもしれない。

老杉の巨木群に囲まれてひっそりと佇む殿舎群は、「恐らく天から降ったもの」とドイツ人建築家ブルーノ・タウトが表現したように森厳な存在として望見される。

いつこの空間構成が確立されたのか、なにびとが最初にこの建築を建立したのか、その起源は古代の闇、神話世界の中に消えていく。

「遷宮」という世界に冠絶する祭儀は、天武天皇が発意し、持統天皇の御世に初めて行われたと伝えられている。

爾来1300年以上、この祭儀は絶えることなく日本固有の伝統文化として受け継がれ、未来永劫継承されることで、日本という国の正統性を担保する役割を担っている。

20年経るごとに殿舎のみならず、御装束神宝の一切が新しく調えられ、「伝統」と「清新」といった矛盾すると思われる要求が同時に満たされている。

「常若（とこわか）」と呼ばれ、つねに瑞々しく建築や事物が新たになるということは、神が住まう建築もまた「命あるもの」と定め、ライフサイクルコストを計量せざるを得ない現実の中で、建築設計・建設に携わる者にとっては、はるか彼岸の作事と考えられる。



せんぐう館 全景

■せんぐう館がめざしたもの

「せんぐう館」は世界に類例のないこのユニークな「式年遷宮」の歴史や意味、そしてその役割、さらにはそれを支える卓越した木工技術や造営システムを始めとする伝統を、後代に広く伝えるために計画された。

「神の座」である神域内に建設される建築ではあるものの、もちろんこの建築を20年ごとに建て替えるわけにはいかない。

「神聖な環境の中に新しく参入する建築はどうあるべきか」と自問し、「古代神話につながる歴史の重みに耐え得るものでありたい」と願うことから計画が始まった。

そして、新たな建築に求められる「作法」は、神宮神域内の配置の形式にはじまり、社殿建築のプロポーション・形態言語・素材感・空間構成原理などを、現代の技術と材料により、可能な限り丁寧に「祖述する」ことであろうと考えた。

外宮、勾玉池の畔に建つこの建築は、「あたかも古代からそこに建ち続けていたと感じさせる」ほどに風景に溶けこませること、同時に「将来も決して古くなったと感じさせない」ような普遍的な存在感を付与することが意図されている。

遠景として見た時、御垣に囲まれた殿舎の屋根群が明瞭に記憶されることに倣い、この建築も樹林と勾玉池の水面に囲まれた、二つの大屋根が強く印象に残るように構成されている。

せんぐう館（資料館）の屋根勾配は、神を祀る正殿をはじめ他の殿舎に倣い「矩」勾配とし、従うべき休憩所は五丈殿・九丈殿などがそうであるように「緩」勾配とし、神宮内の主従の関係性を模し、視覚化している。



外宮正殿原寸大模型展示空間

屋根素材は、古代の「たたら製鉄」との連想から「鉄の铸件」で葺くことにした。

外宮に隣接する山田工作場で、長い年月をかけて丁寧にご下しえされた萱や、材木が、御敷地に運ばれ、殿舎が組み立てられることに倣い、継ぎ目なしで世界最長（11.5m）となる鉄製の屋根材や、外宮参道の砂利が練りこまれた浮き床のPC板も、丁寧に一本、一枚ごとに鑄込まれ、磨かれ、現場に運ばれて組み立てられた。

モジュール寸法は殿舎の棟上に並ぶ堅魚木（かつおぎ）の寸法の倍数、あるいは分数により成立し、屋根材はもとより、柱間、梁間、さらには床材、壁材、天井材の割付寸法となっている。

こうした寸法の繰返しによって、「整序」された空間のリズムを生み、「簡潔」で「清浄」な空間性を獲得しようと試みた。

一方、内部空間は、二重の「入れ子構造」として秩序だてられている。

稲倉を神の住いとして宮殿化する時、取り込んだと考えられている正殿の「回り縁」を「内部回廊」として写し、入れ子内部を展示空間として、今まで一般には目にすることが憚られていた御装束神宝および、その製作過程を説明する展示が納められている。

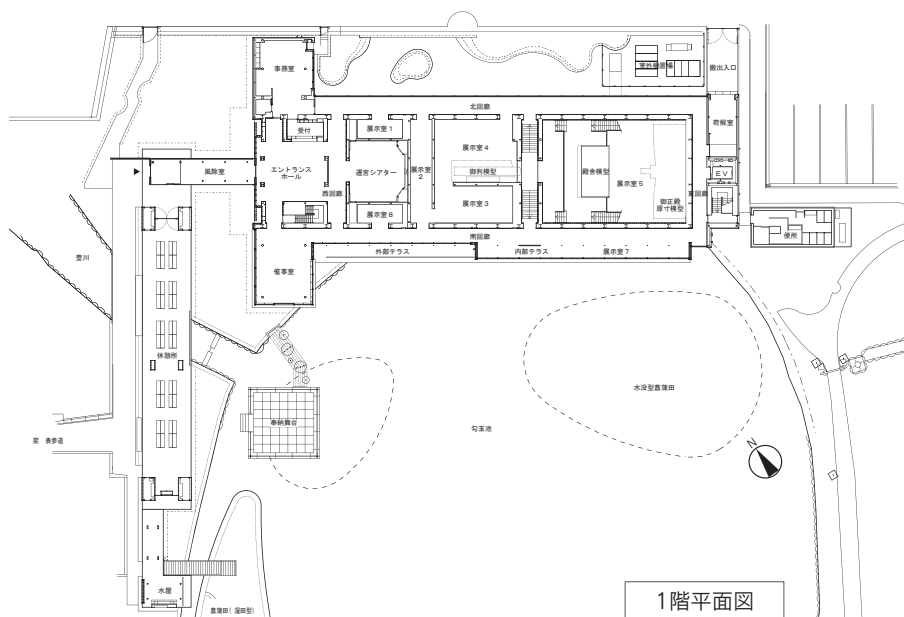
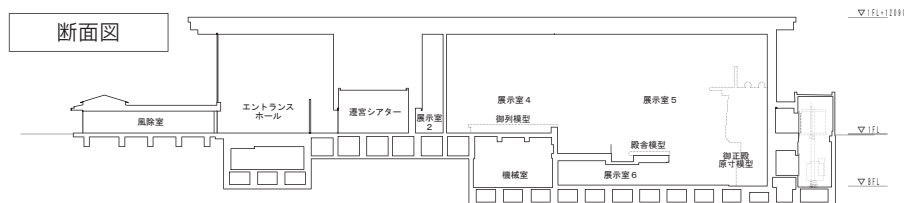
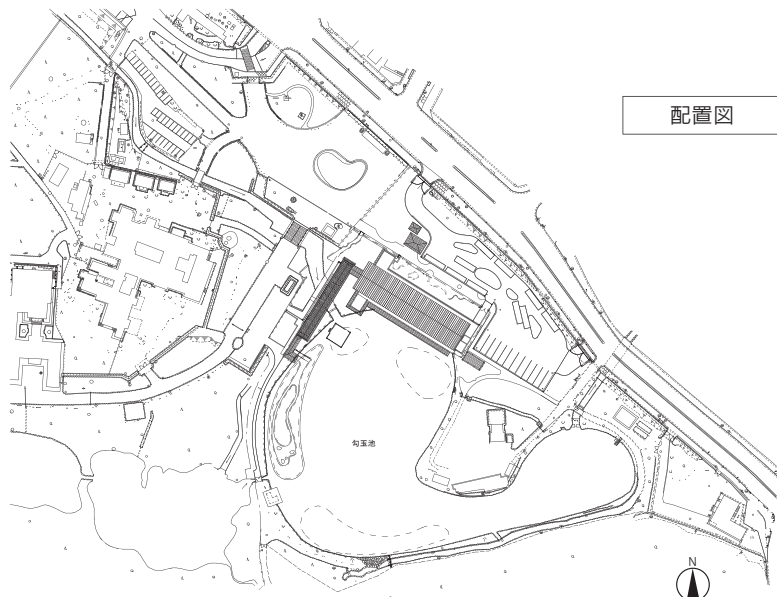
建築空間との対話を最も必要とされる展示として、3種類のスケールの模型を設定した。浄閑（じょうあん）の渡御御列模型（1／6）、外宮殿舎配置模型（1／20）、外宮正殿表面再現模型（原寸）は、床のレベルを変えて一直線に並べて配置した。

そのことにより、4重の御垣（板垣・外玉垣・内玉垣・瑞垣）によって重畳する空間を、原寸正殿に向かって様々な「距離」と「視角」でシーケンシャルに体感できるからである。

人々は御列とともに、今まで隠されていた御垣内に歩を進め、神秘の正殿の足元に降り立つことになる。

ここでは、単に「展示資料としての正殿」を見るのではなく、「神の住い」に近づくことの「畏れ」と「祈り」の心を惹起させ、西行法師の心情を少しでも祖述できればと考えたのである。

（くりゅう あきら）



休憩所より奉納舞台を望む



写真1 旧外宮神楽殿

三重の建築文化に見る遺伝子



「悠久の杜・標せ平成の 匠のこころと技」

～伊勢神宮外宮神楽殿 での試み～

清水建設株式会社 名古屋支店
上席マネージャー

宇野康則



1949年 愛知県岡崎市生まれ
1972年 名古屋大学工学部建築学科卒業
同年 清水建設株式会社入社
1997年 名古屋支店建築部副部長
1998年 外宮神楽殿改築工事担当（統括工事長）
2003年 名古屋支店建築技術部長
現在 名古屋支店上席マネージャー
著書
「建築施工を学ぶ」（理工図書2012：共著）
「建築生産」（オーム社2013：共著）

■はじめに

伊勢神宮は天照大御神を祭る内宮と豊受大御神を祭る外宮がある。外宮にある神楽殿は明治8年に豊受大神宮祈禱所として設立され、同26年には、今回建て替えられた建物（写真1）が外宮神楽殿として開殿された。百有余年の間に戦災や伊勢湾台風等の自然災害に見舞われ、建物の痛みは予想以上のものがあった。平成9年に「外宮神楽殿改築基本構想」が取りまとめられ、平成11年4月より全面的に建て替える工事が開始された。改築に当たっては、設計・施工を清水建設㈱が担当し、「神宮の森の樹木を保存し、伝統様式を保持し、かつ、使い易く、耐震性、耐久性に優れた建物にする」との基本構想のもと、現代建築の先端技術と伝統木造建築を融合させた、簡素にして優美な姿の神楽殿（写真2）として再び甦ることになった。



写真2 新外宮神楽殿

■外宮神楽殿の設計とその具現化

設計条件は基本構想のもとに5つの骨子からなる。

（1）規模を倍にして建て替える

旧神楽殿の願主席は24畳しかなく、近年の増加傾向にある団体の参拝者への対応に配慮し御殿の規模を2倍に拡大し、それに合わせて応接室や待合ホールも充実させた。

（2）願主と職員を明確に区分する

願主席をはじめ、^{とうでん}登殿廊下・待合ホール等の願主ゾーンと大^{たいま}麻授与所や事務所等の職員

ゾーンとを明確に区分けし、両者の動線が交差しないようにした。

（3）旧神楽殿と同様の伝統木造表現とする

旧神楽殿や内宮神楽殿と同様の形式とすることから、本来は木造で造りたいところだが、延べ面積が1000㎡を超える建物は木造ではできない。しかも、伝統木造で、ということになると、防火的処置や構造的な処置が生じ、伝統木造の表現を著しく損なう恐れがあった。そこで、もっとも相応しい構造体として鉄骨造を採用したが、第一に木造建築としての木割りを整え、次に、それを支える構造体を設計するという手順で進めた。「^{しょうめい}匠明」の木割りは柱の太さを基準にしている。建物の規模により、その寸法が決まり、柱割りが決まり、柱の太さが決定されると、その寸法を基準にして、垂木幅等の部材寸法をはじめ、軒の出やその反り上がりに至るまで、ほとんどすべての寸法が決められる。また、内宮、外宮神楽殿の規模や各部の寸法比較を行い、建物の格を意識して寸法を決めていった。

その結果、木造の柱として28cmに見せるためには、その中に入る構造体の柱としては、納まり上、直径20cm以下に抑えなければならない。そこで検討された構造体がシームレス鋼管柱である。シームレス鋼管（特殊製法による溶接継ぎ目のない極厚鋼管）を使用することにより、高い耐力と優れた変形性能が発揮され、従来の鉄骨造に比べて柱を細くすることができる。構造計算の結果、直径19cm、厚さ3cmのシームレス鋼管にすることができ、木造建築としての柱の太さを変えることなく、木割りどおりに収めることができた。シームレス鋼管の採用は耐震性のためにだけでなく、木造建築として木割りを成り立たせるためにも、まさに最適の構造であると言える。（図1）

外宮神楽殿の「簡素でしなやかな美しさ」は、軸部と屋根に見られる。軸部は柱と横架材による軽快な構成の中に、白木と白壁による簡素な表現となる。次に屋根の大きさであるが、入母屋破風の位置が大きく関係してくるので、実例を分析し、破風が大きくなり過ぎないようにして軽やかに見せる工夫をした。しかし、何といたってもしなやかな美の表現を決定づけるもっとも重要な部分は、軒廻

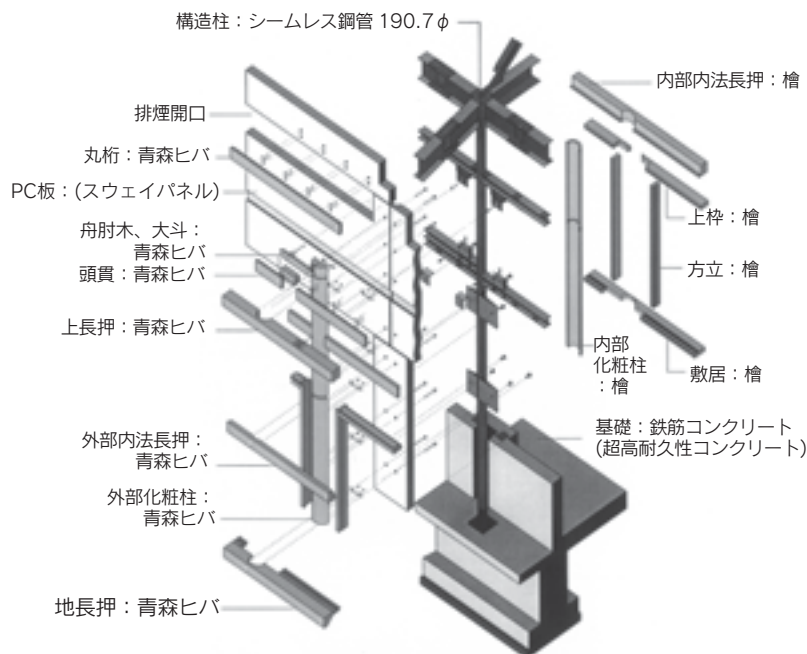


図1 鉄骨・PC板・木材納まり分解図



写真3 現寸図

りのデザインにある。特に軒の反り具合は、建物のイメージを決定づける。これらの要素は設計図書のみでは表現しきれるものではなく、特に組物や軒反り、破風の形については、現寸図や現寸模型による検討が必要である。きくじゅつ（伝統建築の作図法）に関しては多くの資料があるが、今回は江戸時代以降ほとんど使われなくなったといわれている「総反り」（両端だけでなく軒全体が反っている）、「捻のき軒」（中央から隅にいくにしたがって垂木の勾配が緩くなり軒裏全体が軽快に捻じ上がる）、「反り出し勾配」（木負と茅負の投げ勾配の差によって飛燕垂木が隅にいくにしたがって短くなり伸びやかさを失うことを防ぐ）という日本の大工技術の最も高度な技術を、まったく新しい方法で甦らせ、コンピューターを駆使して、様々なシュミレーションによって、これこそ日本的に洗練されたしなやかさを持った軒反りと思わせる曲線を描きだした（写真3）。

施工に当たっては、軒反りと破風廻りの現

寸図を書き上げ、これらは、神宮の山田工作場に足場を組んで実際の高さに掲げ、神宮の方々にご覧いただき決定した。また、現寸図ではどうしても納まりの確認が難しい部分は現寸模型を作成し、決定していくプロセスを取り進めた。また、使い勝手の良さを追求する中で、授与所のカウンターも電動式格子戸の安全性を含め現寸模型で検討した。

（4）耐震性・耐久性に優れた建物

日本の伝統木造は、組み立てや解体が容易にできる工法により、建物の長寿命化を図ってきた。これをヒントに、ライフサイクルを考えメンテナンスを条件に、200年以上の耐用年数が期待できる工法に挑戦した。鉄骨へのPC板や木材の取り付けには、将来の部材の更新やメンテナンスを考慮して、取替可能なシステムを構築した。（図2、写真4）

（5）樹木の保存

神楽殿の用地には樹齢数百年を超える3本の大楠があり、神楽殿と周辺の景観を調和させ、神域の尊厳性を維持するとともに、自然

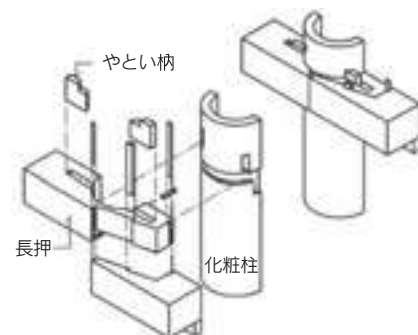


図2 継手・仕口分解図

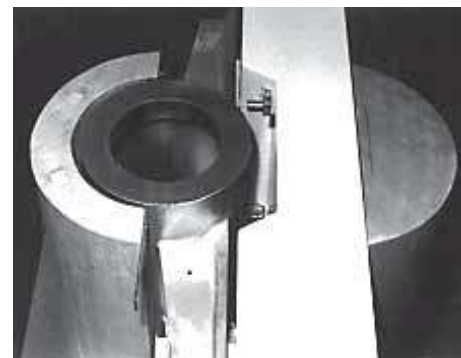


写真4 シームレス鋼管と木の納まり現寸模型

環境の保全をすることを計画に盛り込み、大楠の根を配慮した構造計画とした。

掘削中に出現した根についてはその都度構造設計者と協議、基礎の形状変更を行った。地下工事では、揚水による影響を少なくするため、止水山留め壁とし、観測井戸を設け工事を進めた。（写真5）



写真5 敷地内の大楠

■おわりに

外宮神楽殿が目指した、日本的に洗練された伝統木造の表現は、日本古来の伝統の技と、現代の先端技術の高度な融合があって初めて実現できたと感じている。「悠久の杜・標せ平成の匠の心と技」をスローガンに掲げ、匠として各々が力量を十二分に発揮した建物として完成した。（うの やすのり）

伊勢神宮と 式年遷宮

愛知工業大学 客員教授

飯田喜四郎

1924年 東京都生まれ。
1949年 東京大学建築学科卒業。同大学院(旧制)、フランス留学、宮内庁工務課勤務を経て
1966年 名古屋大学教授
1988年 愛知工業大学教授
1992年 神宮司庁技監
1997年 博物館明治村館長
2010年より愛知工業大学客員教授。
研究分野：建築史、文化財建造物保存。
主な著書：「カテドラルを建てた人びと」(翻訳 鹿島出版会 1969)、「カテドラル」(翻訳 岩波書店 1979)、「ゴシック建築のリブ・ヴォールト」(中央公論美術出版 1989)、「世界美術大全集第9巻ゴシック I」(共著 小学館 1995)、「伊勢神宮の式年造替」(『建築史学』 1999) 他。



1. 皇大神宮正殿（下）と新殿（神宮司庁提供：平成5年撮影）

■ 1. はじめに

神宮では東西に隣接して同じ形状の二つの敷地を設け、20年ごとに同質の新しい材料を用い、同じ規模・比例・形式・構造を守りながらすべての殿舎を新築し、新しい殿舎へと遷宮を行う。老化し消滅する古い材料に固執せず、すべての殿舎を創建当初の美しい姿に立ち返らせる神宮の式年遷宮は、再建の大事業を20年ごとに提起することによって、この事業の意義と再建されるその姿が表明する理念を、広く人々の間に喚起する。1300年受け継がれてきたこの式年遷宮は、類例のないわが国独自の文化的伝統であり、建造物としての即物的な面から言えば、当初の姿を確実に後世に伝承する形態保存の優れた制度である。

皇祖神である天照大神は初め皇居内に祀られていたが、崇神天皇の時代に大和国の笠縫邑で祀られることになり、次の垂仁天皇の時代に、五十鈴川の川上の現在地に鎮座したと伝えられる。鎮座から約700年近く経った持統天皇の時代に、20年ごとの式年遷宮制度が定められ、690年に第1回遷宮が行われた。戦国時代に約120年間中断した時期はあったが、この制度は再興され、平成25（2013）年には第62回遷宮が挙行される。

内宮では敷地の中央北寄りに南面して正殿があり、その背後の東西に宝殿が1棟ずつ南面して配置され、この3棟を内側から外側へ向かって端垣、内玉垣、外玉垣、板垣が囲む。これらの垣には南北軸線上の北側に簡素な門が3構えと神明鳥居形式の門1構え、南側には幅3間、奥行き2間の門3棟と神明鳥居形式の門が1構え設けられる。外宮では敷地の中央北寄りに南面して正殿がある点は内宮と同じだが、宝殿が北面して正殿と対する点と、板垣の東北隅と西北隅にそれぞれ1棟の殿舎を配置する点が内宮と異なる。

■ 2. 掘立柱の腐食

平成5（1993）年第61回遷宮を目にした9月下旬に外宮の西宝殿が傾いたとの報告を受けた。西北の柱が沈下したため、地上部分で柱は約10cm傾いていた。神宮の柱はすべて掘立なので、地中部分（以下柱根と呼ぶ）は当然腐食する。遷宮の前年、内宮神楽殿に隣接する五丈殿で、柱の沈下により軒先が折損したため、柱の根継ぎ工事が行われた。筆者はこの時点では例外的な事故として、特に気にしなかったが、その約1年後に同じ事故が再発したため、先学の稲垣博士（東大名誉教授）に照会したところ、長暦4（1040）年

7月、台風により外宮殿舎が転倒したとの教示を受けた。

しかし長歴4年当時は、殿舎の柱は極めて太いので、20年も経たぬ内に腐食のため転倒したのは『希代の事』とされた。この見解は広く受け入れられたらしく、20年経過した殿舎の柱根の腐食状況に関する組織的調査は、明治時代になってからも実施されていない。そこで今回の事故を考慮して、両宮の古殿舎に使用されている直径30～75cmの柱根の腐食状態を調査した。

その結果は平安時代以来の予想を全く覆すものであった。特に太い正殿の柱を含めて柱根は20年ごとの造替を必然と思わせるほど朽損していた。半数以上の柱は柱根が完全に腐食し、健全な柱根は1本だけという状況であった。

神宮では掘立柱を腐食から守る措置がとられていなかった訳ではない。柱が地表に接する地上約10cmと地下約20cmの部分は特に腐食しやすいので、銅板を巻いて保護されていた。しかし神宮では掘立柱を埋め戻す時、清浄な山土に石灰とかなりの量の^{にがり}苦塩（塩化マグネシウム）を混入していた。石灰は埋め戻し土を固める効果がある。苦塩を混入したのは、根巻の銅板に作用させて強い殺菌力を持つ塩

化物を生成させ、地中に浸み込んだ塩化物によって柱根を長期にわたって保護させるためであった。

この措置は当時の遷宮局長・角南隆博士^{すなみ}が戦前からの調査と実験成果に基き、第59回造替の時に採用したものであった。その効果は昭和48（1973）年第60回遷宮後に調査されるべきであったが、見過ごされてしまった。第61回遷宮後の古殿解体時の調査により、その無効が判明したので、平成6（1994）年以降は苦塩の使用を禁止した。

しかし、この古殿解体時に銅板による防腐方法をたまたま発見した。それは宝殿に登るために1本の太い桧材から刻み出した急勾配の階段に採用されていた。この階段は下端部を地中に埋めて固定されていたが、地表から高さ10cm以下の部分は底面を含めて銅板で被覆されていた。地上高さ10cm以上の部分は腐食が始まっていたが、銅板で被覆された10cm以下の部分は、木肌もみずみずしく、全く腐食していなかった。この防腐方法は平成6年に造替される宇治橋両端にある2基の鳥居の柱根に採用して効果を確認することとした。

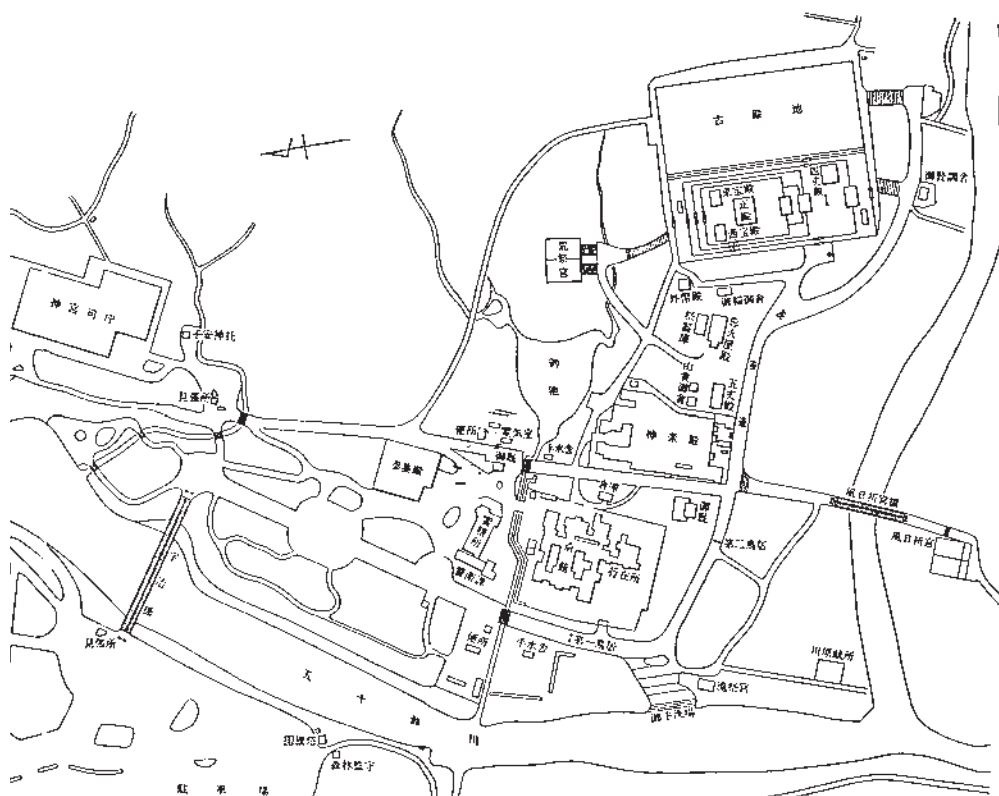
平成7年度から摂末社の大修理と改築が行われたが、これらの摂末社の一部では、垣の

細い柱などについても銅板被覆が採用されており、その有効性が確認されたので、第62回造替では全面的に銅板被覆を採用することとした。

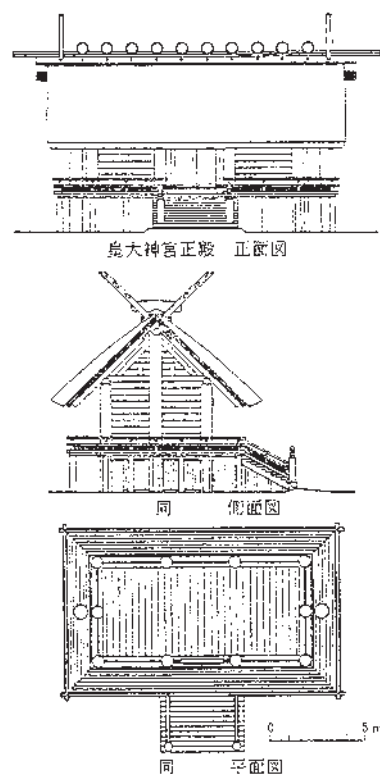
■3. 桧の調達

造替用桧材は鎌倉時代まで神路山や高倉山など神宮の山林か、神宮に近い山林から伐り出されていたが、桧の枯渇に伴って各地に造替材が求められ、江戸時代中期以降は木曾から供給されるようになった。明治維新後も皇室の御料林になった木曾から伐り出されたが、明治末年から御料林の中で特に大径木の多い山林約8,000ヘクタールを選んで、造替用材を供給する専用林（神宮備林）とした。

戦後、木曾の御料林は国有林となり、造替用材は宗教法人となった神宮へ有償で払い下げられるようになった。旧神宮備林は規模を半減されながらも学術保護林や大材生産林などとして保護されてきた。しかし平成3（1991）年に林野庁の方針が変わり、文化財建造物などの特別注文に限って旧神宮備林から選択伐採すること、かつて年間10万立方メートルに及んだ天然桧の伐採量を平成8（1996）年以降は3.5万立方メートルとすること、天然桧の皆伐（平成80年頃？）後に植栽



2. 皇大神宮宮域図



3. 皇大神宮

(2.3 福山敏男著『神社建築の研究』昭和59年12月)



↑ 5. 園相神社の柱（平成 7 年）。底面以外の柱根は銅板で被覆されていたので、全く腐食していない。

← 4. 宝殿の柱（平成 6 年）。左端の 2 本の柱を除く 10 本の柱の内、4 本は柱根が消滅、1 本はほぼ消滅。

する桧は、育成期間を150年にすることなどが決められた。

これは神宮にとって極めて重要な方針転換である。式年造替に必要な大径木は造替用材の3分の1を占めるが、育成期間を150年に限定すると、神宮が必要とする大径木は全く生産されないことになる。18世紀以来300年にわたって造替用材を供給してきた木曽は、神宮との関係をここで打ち切られるわけである。

神宮では大正末（1925）年から管理をゆだねられた宮域林で桧の育成に着手している。宮域林5,400ヘクタールの内、殿舎と一体になって優れた景観を形成している1,100ヘクタールの森林は自然のままの林相を維持し、後背地の4,300ヘクタールは五十鈴川の水源涵養と風致保護をはかりながら、その内の2,800ヘクタールを針葉樹と広葉樹の混交林とし、組織的に桧を育成することとした。

8,000ヘクタールの神宮備林の存在に不安を持たなかった大正末年にこのような植林計画が策定・実施されたのは、誠に驚くべきこと

である。木曽より温暖で地味も豊かなので、宮域林における桧の成長は早い。しかしまだ80年余りしか経っていないので細い原木しか生産されないが、それでも平成25年には、造替に必要な用材の30%近くを供給できると思われる。しかし正殿の柱のような大径木はまだ百年以上も待たねばならない。従って木曽の大径木が枯渇する平成85（2072）年第65回から、宮域林がまだ大径木を提供できない平成125（2112）年第67回までの3回の造替に必要な大径木の調達方法を検討しておかねばならない。

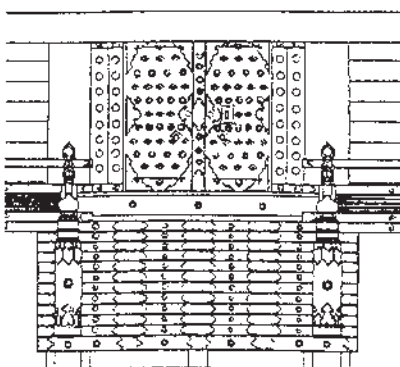
そのような折にたまたま、青森県の下北・津軽両半島に全国の85%が集中している北方系ヒノキアスナロ（通称青森ヒバ）の特性と産出状況等の特集した機関誌が研究室に届いた。ヒノキ科に属するこの北方系ヒノキアスナロは青森県に1,300万立方メートル蓄積されており、天然更新により毎年14～15万立方メートルを安定供給できる。材質は木曽桧とほぼ同じで加工性も良く、強度も劣らない。

木曽桧のような芳香はないが、木曽桧にはみられない防腐性と防蟻性を具えており、大径木の入手も可能で、価格は木曽桧の3分の1～4分の1に過ぎないという。

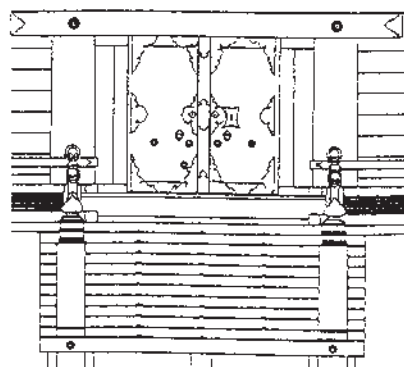
価格が低い点も重要な意味を持っている。第59回遷宮の時の桧1立方メートルの価額は29,000円、第60回では55,000円、第61回では50万円という飛躍的な高値になった。パブル破綻後、騰勢は鈍ったものの近い将来の枯渇を見込んで価格の上昇は続いている。そこで木曽桧は神座のある殿舎に限り、その他の殿舎や橋梁等の工作物にはヒノキアスナロを使用すると共に、原木から造替用材の挽き出す方法や原木の注文寸法等についても再検討が進められている。

■ 4. 萱葺屋根

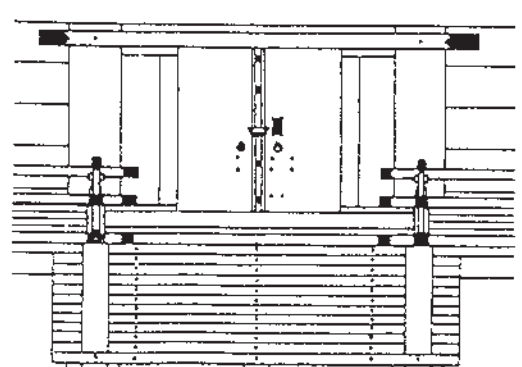
白木の桧で造られた建物を覆う萱は、造替される殿舎の最も重要な材料の一つである。この萱は宮川の上流にある川口萱山を中心とする約200ヘクタールの神宮の萱場で採取され



6. 皇大神宮御屏廻り図（昭和4年）



同（現行）



同（鎌倉期）

（福山敏男著『神社建築の研究』昭和59年12月）

る。萱は真直ぐで長さ2メートル前後のものを選んで40cmくらいの直径に束ねられ、通気性の良い倉庫に貯蔵される。1回の造替に必要な量は約23,000束といわれ、6～7年間で必要量を採取する。完全に成熟した萱を霜にさらし、身が十分に締まった真冬の1月に採取するので、その材質は積雪地の物よりも上質といわれる。強く締めつけて厚く丁寧に葺き上げられる萱葺屋根は、ここかしこに金銅金物を取り付けた軟らかい金色の桧の殿舎を覆って鈍い金色に映えるが、数か月のうちに光沢を失って灰色に変わり、数年後には表面から腐食し始める。

南側の萱葺屋根は陽光を浴びて乾燥しやすいが、北側は乾燥しにくいので、腐食の進みが早く、しばしば蘚苔が覆われ、草木が成長する。大木で覆われる屋根の萱は一層急速に劣化する。南側の屋根の腐食が目立つ頃には、北側の屋根は萱を抑える鉾竹が露出して痛ましい状況になる。

約30年の耐久力があるといわれる農家の萱葺きに比べると、精選した材質の良い萱を用いているにもかかわらず、神宮の萱葺屋根の寿命は短い。古い農家では囲炉裏の薪の煙が萱葺屋根を貫流して萱を燻蒸するので、萱は腐食しにくくなる。しかし殿舎には囲炉裏がない上に、殿内に萱や竹が露出しないよう、

萱葺きの下に野地板を張って化粧屋根裏にするので、殿内の空気が萱葺屋根を貫流することはない。また殿舎の萱葺屋根は十分に締めつけて厚く葺かれているので通気性は低く、さらに殿内への漏水を防ぐため、明治末年以降野地板の上は全面的に銅板張りに変わった。

第59回式年造替工事では角南隆博士は松葉で燻蒸した萱に、極細の銅線を混入して耐久性の強化をはかったが、第60回造替ではこの加工方法はとりあげられなかった。第61回造替では化学薬品で処理した萱が一部の殿舎に試みられて、相応の効果が認められた。しかし自然界には存在しない化学薬品であることから、その後は採用されなかった。第62回造替では自然界に存在する素材から抽出した試料で処理した萱による耐久性の向上が試みられている。

■ 5. 金銅金物

120年余の中断期を経て式年遷宮が再興され(1585年)、殿舎が造替された時、金銅金物の数はかなり増加されたが、安土桃山時代という華やか風潮を反映してその後も増加を続けた。またその文様も鎌倉時代まではすべて宝相華唐草であったが、再興以降は当時の多種多様な文様が変わったため、第59回の造替に当たり、角南博士は金銅金物を機能別に分類

して検討し、内宮・外宮共に金物の数を約3分の2に減らし、おおむね平安時代の量に復元した。

金具の文様についても復元する予定であったが、時間不足のため江戸時代のままとし、第60回造替に間に合うように平安時代を目標にして文様を復元する方針を定めた。しかし第60回造替の時も第61回の造替の時も取り上げられなかったので、古代の風格を持つ簡素で雄渾な殿舎に、江戸時代の文様の金銅金物という組み合わせが続くことになった。

第61回式年造替を完了して退任するに当たり、小幡祥一郎技術総監は金銅金物の文様を第62回造替までに改めるよう勧告した。それを受けて平成6年の12別宮の式年遷宮完了後、専門家による委員会が設置され、その審議と検討を受けて、室町時代に遡る金銅金物の文様に復元することを決定した。

神宮の端垣内における殿舎の配置は、内宮では明治中期に江戸時代の形式から鎌倉時代～室町初期の形式に復元されたが、金銅金物の彫刻についても今回の式年造替を機に室町時代の形式に復元された。なお正殿の横軸上の東西に南面して宝殿を一行に配置した江戸時代の形式は、昭和4(1929)年完成の内宮の旧正殿の譲与を受けた熱田神宮で継承されている。(いいだ きしろう)



7. 豊受大神宮、外幣殿古殿舎の鰹木・葦覆・障泥板。白木のままで20年間風雨にさらされた部材は朽損が甚だしい。



8. 野地板は流れ方向に張った互棒状の野地板の上に萱を葺くが、明治末年以来、野地板の表面に銅板が張られるようになった。



9. 宝殿古殿舎、北側の屋根(平成6年)。20年経過すると特に北側の萱葺は朽損が著しく、鉾竹が露出する。左半分の萱葺は高圧水で表面の朽損した萱を洗い流した状態を示す。残存する萱は機械的強度を保っている。

小断面の木部材を織り上げ大きな空間をつくる
「木に包まれた心地よい居場所づくり」

新城市立黄柳川小学校

愛知県新城市

東畑建築事務所
久保久志・中牟田昌慶

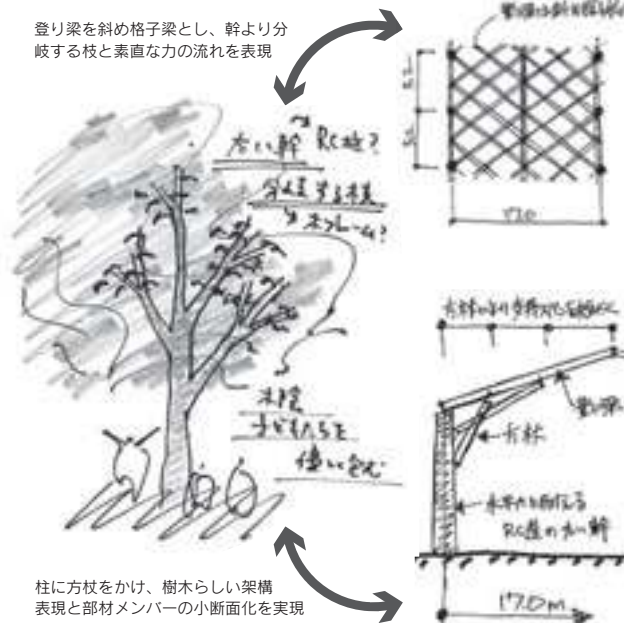


【大樹に優しく包まれた架構表現 ～アリーナ～】

本作品は、長篠の戦いの舞台で知られる新城市の山奥に建つ木造2階建ての小学校であり、山吉田地区2校の統合校として、長年地域から切望された全校約70名の小規模校である。敷地北側を東西に流れ伸びやかな風景をつくる黄柳川、四季折々の豊かな表情を見せる周辺の山々。風光明媚な場所に建つ学校ならではの木に包まれた豊かな学習・生活空間をどう形づくるかがテーマとなった。

大スパンの無柱空間が求められるアリーナにおいては、地にどっしりと根付いた一本の幹、大空に向かって分岐する枝葉、木陰に集い遊ぶ子どもたち、そんなイメージを木架構により表現する手法を探った。大きな梁せいが必要な門型フレームにより、圧倒的な木のボリュームが全面に出る表現ではなく、小ぶりの木部材が互いを支えあい大きな空間を形づくり、木々に包まれた温かい空間表現を大切にしたい。構造設計者とスケッチ・模型により何度もスタディを重ね、校舎・多目的ホールにおいても、それぞれの空間イメージに合った木架構による力強くも温かい構造表現を心がけた。

(意匠担当：久保久志)



【設計初期段階でのイメージスケッチのやりとり】

具体的な構造形式としては、大スパンのアリーナ、多目的ホール共に、RC造の下部躯体に対し木造の屋根を架けるハイブリット構造とした。高い耐震性を確保するため、地震力等の水平力はRC造の躯体で抵抗させるよう計画し、木架構に水平力による過大な応力が発生しないように配慮した。特にスパン17m×36.4mのアリーナについては、地にどっしりと根付いた木々に囲まれた空間というイメージを素直に構造形態で表現し、スパン方向について、木の幹になぞらえて基礎梁からRCの独立柱を立ち上げ、その柱から枝状に方杖を出し、屋根の登り梁を支える形式とした。この方杖により屋根登り梁の支持スパンを短くすることで部材の小断面化を図った。また、屋根の水平面剛性確保のため登り梁を斜め格子状に架け渡しているが、これも木々に包み込まれる空間というイメージから着想を得たものである。

(構造担当：中牟田昌慶)



【中心性をより強調させた架構表現 ～多目的ホール～】

世界最大のプラネタリウム球体を浮かせる

名古屋市科学館

愛知県名古屋市中区

日建設計
岡田宏介・杉浦盛基

名古屋市科学館は建設地白川公園と北側中心市街地との境界に東西に長く配置されることから、街の賑わいと公園の憩いをつなぐため、世界最大のプラネタリウム（外径約40m）を内蔵する球体を宙に浮かせ、白川公園のシンボルゲートとしてデザインした。総重量約40000KNの球体を宙に浮かせ、浮遊感を表現することを目指し、柱を球体から離れた四隅に配置する構造計画を行った。球体の構造は球体重量を柱に伝える下部球体とプラネタリウムドームを構成する軽量な立体トラスの上部球体に分割して構成した。

下部球体は球体重量を支持するため、東西両棟端部の4本の柱を結ぶX形の平面形状に、下方に凸なアーチ架構を架設した。加えて、内部に2層の展示空間を確保するため、球体外周にトラス架構を配している。球体の総重量を抑え、架構の最適化を図るため、プラネタリウムを覆う上部球体はシステムトラスと鋼管を併用した複合トラス構造とし、外装材には軽量性と遮音性を合わせもつGRC版を採用した。地震や風による水平荷重に対しては、矩形平面の東西両棟と球体を一体として抵抗する計画としている。



外径約40mの球体を見上げる



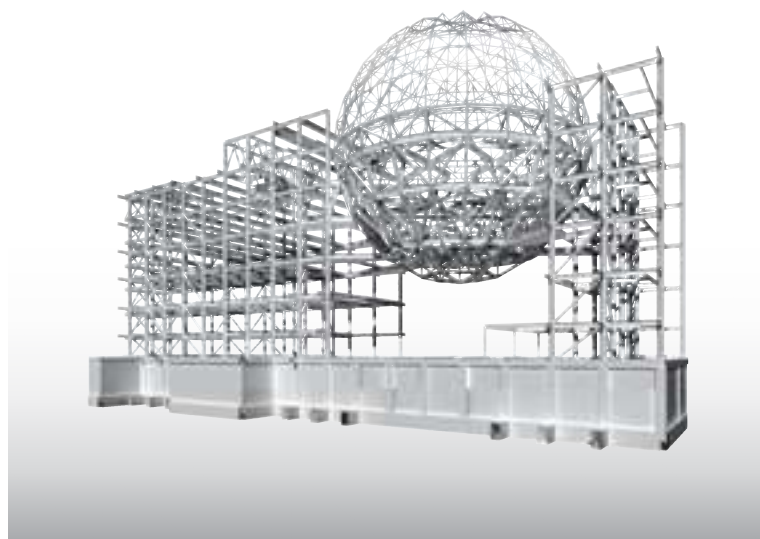
上部球体フレーム



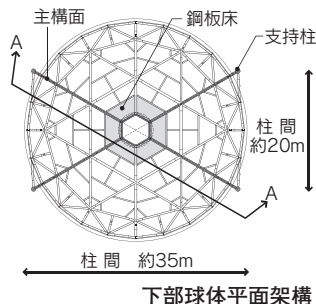
下部球体フレーム（全景）



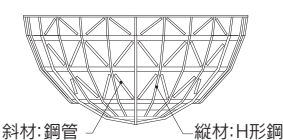
下部球体フレーム（見下ろし）



全体骨組みパース



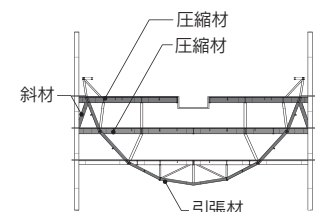
下部球体平面架構



下部球体外周架構



球体の支持機構



球体支持主構面（A-A断面）

ヴォールト屋根架構のsmallバンク

瀬戸信用金庫藤が丘出張所

愛知県長久手市

竹中工務店設計部
中屋隆史



全景



エントランス外観

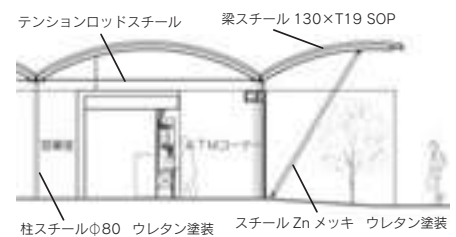


営業室



架構アイソメ

元コンクリート工場の導入道路であった間口12mの土地に、建設された銀行の出張所。奥行き28mの細長いウナギの寝床の様な空間に対して軽快なヴォールト屋根の連続によりリズムを与え、親しみやすい街角のsmallバンクとした。構造は厚板をカットしたアーチ架構とし、デッキの栓溶接により水平剛性の確保することで、屋根を全体で厚さ200mm、半径5.4mの伸びやかなアールとした。屋根ヴォールトは下部の躯体とは切り離し、内部のATMコーナーやバックのスペースはハウスインハウス形状の自立する箱として、波のかたちが伸びやかに空中を舞うようにした。



断面図 S=1:180



柱周り

複合構造によるオープンワイドな大開口

T Gate House

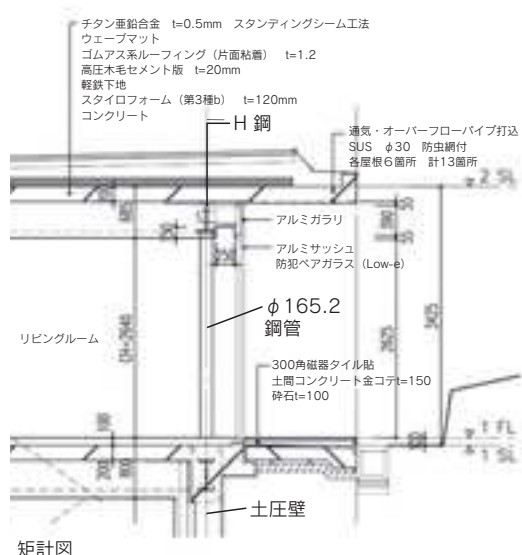
愛知県

安井・タキモトアーキテクツ設計共同体
安井建築設計事務所
篠原佳則・築谷朋也・安田拓矢
タキモトアーキテクツ
滝本浩明

斜面地に建つ個人邸である。パーティールームとゲストルームのあるPublic Gate、リビングダイニングがあるSemi-Private Gate、家族の寝室、浴室、和室のあるPrivate Gateという3つのGateを地形に合わせて配置をしている。柱のない室内大空間の確保とオープンワイドな眺望を実現するため、土圧と地震による水平力をGateを形作る幅400mmの鉄骨鉄筋コンクリート壁柱に負担させ、スラブの鉛直力をH-400×200×8×13 (SS400) の鉄骨梁とφ165.2×7.1の鋼管柱にて負担することとした。

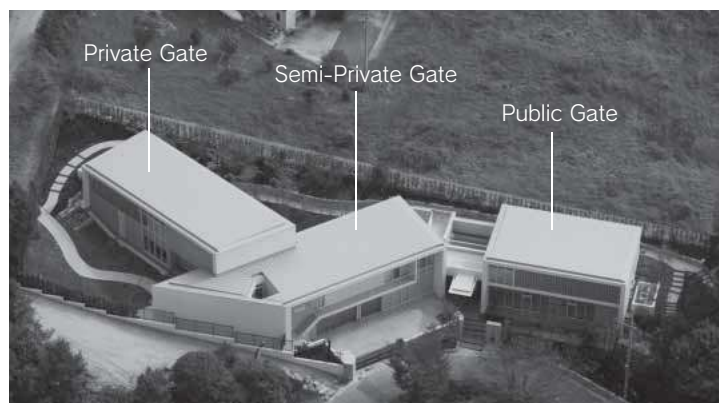
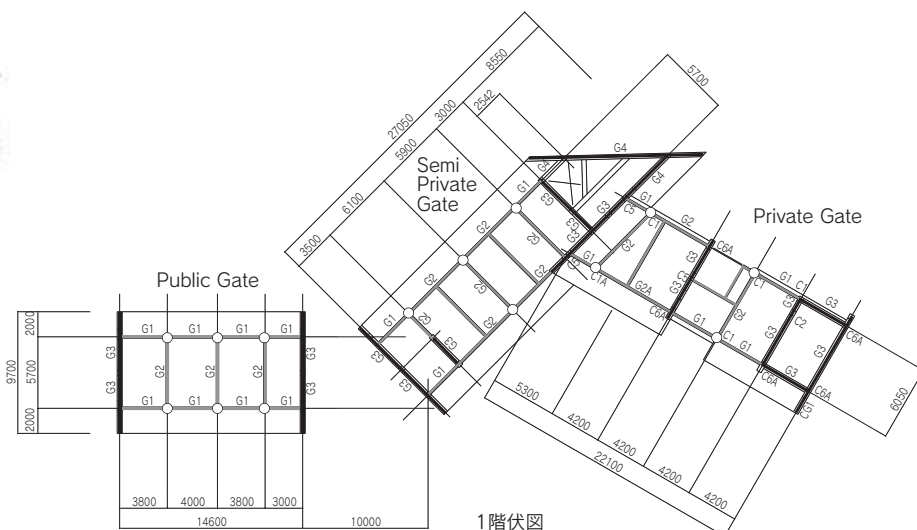
この地区の景観協定により、2階建て高さまでしか認められないため、斜面の等高線にそって地形になじんだ形状となった。片土圧を処理するため、400mmの鉄筋コンクリート壁を設置した。

鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造を組み合わせた複合構造とすることにより、①室内からのオープンワイドな眺望、②屈折する平面とセットバックする断面の地震力の移行、③部分地下と片土圧の処理を行った。住宅としての利用勝手を考慮し、Exp. Jointを設けない3つの角度を持った平面ブロックに柱を内蔵したRC耐力壁をそれぞれ配置し、建物全体剛性と全体耐力を確保することとした。



矩計図

- 鉄筋コンクリート壁(t=400mm)
- 鉄骨梁
- 鋼管柱



全体俯瞰



Gate形状の外観



Private Gardenとリビングダイニング

神戸らしい都市景観を —事前協議を条例で位置づけ—

神戸市都市計画総局計画部まちの デザイン室

趣旨・概要

■制度の趣旨

神戸市では、神戸らしい都市景観形成を図るため、事業者に対し景観法および都市景観条例（以下、「条例」という。）に基づく届出を求め、助言・指導を行っている。

これまで、届出の前に事前協議を求めているが、条例上の根拠がなく有効に機能しないケースがあった。

平成24年10月12日に条例を改正し、景観に大きな影響を与える建築物については、事前協議を条例に位置づけた。早い時期から市民に広く情報提供することで、都市景観の誘導制度の充実に図ろうというものである。

■制度の概要

- ・届出の前に①計画段階②設計段階の2段階で事業者と市で景観デザイン協議を実施する。
- ・専門的な見地から協議を行うため、都市景観審議会の中に設置した専門家による検討会（景観アドバイザー専門部会）の意見を聴いて、市が景観デザイン評価を実施する。
- ・透明性を確保し市民の意見を反映させるため、協議資料の縦覧や結果などの情報を提供する。
- ・事業者による住民等への説明会を実施する。

協議の対象となる行為

■全市で対象となる建築物

- ・高さ45mを超える建築物の新・増・改築
- ・総合設計制度の適用を受ける建築物の新・増・改築
- ・高度地区見直しによる既存不適格建築物の建替えて高さ20mを超えるもの

■地域指定で対象となる建築物

景観上重点的な地域指定の地区（景観計画区域7区域、都市景観形成地域6地域、景観形成市民協定締結地域9地域）では、全市で対象となる建築物に加え次の建築物が対象

となる。

- ・高さ20mを超える建築物の新・増・改築
- ・景観計画区域（北野町山本通都市景観形成地域）の地上4階建て以上の建築物の新・増・改築

協議の時期

設計段階の景観デザイン協議は、高さ45mを超えるもの、または総合設計制度を利用するものは工事着手予定日から180日前、それ以外のものは90日前となる。

計画段階におけるデザイン協議の時期はそれ以前となる。

手続き

■計画段階景観デザイン協議

○内容

- ・建築物の配置、ボリューム等について、歴史、自然環境、周辺の街なみなど地域特性を考慮した景観上の配慮について協議する。

○景観デザイン評価

- ・市は景観デザイン評価を実施し、事業者に通知する。
- ・事業者は市に回答書を提出する。

■設計段階景観デザイン協議

○内容

- ・意匠、色彩、外構等について協議する。
- 景観デザイン協議資料の公表、住民説明
- ・市はデザイン協議申出書を公告するとともに図書を2週間縦覧する。
- ・事業者は、特に景観形成に与える影響の大きいもの（180日前に設計段階の景観デザイン協議を要するもの）は下記を実施。
 - ①住民説明会の開催
 - ②住民説明会の広報
 - ③地域で活動する景観形成市民団体へ説明
- 景観デザイン評価
- ・事業者は住民や景観形成市民団体の意見の対応方針をまとめた説明結果を提出。
- ・市は景観デザイン評価を実施し、事業者に通知する。
- ・事業者は市に回答書を提出する。

■景観デザイン協議の結果の公表

デザイン協議の結果（市の意見、住民説明結果、事業者回答等）を市のホームページで公表する。

■景観法や条例に基づく届出

景観デザイン協議の成立または打ち切り申出後に事業者は景観法や条例に基づく届出を行う。これら届出の後、工事着手となる。

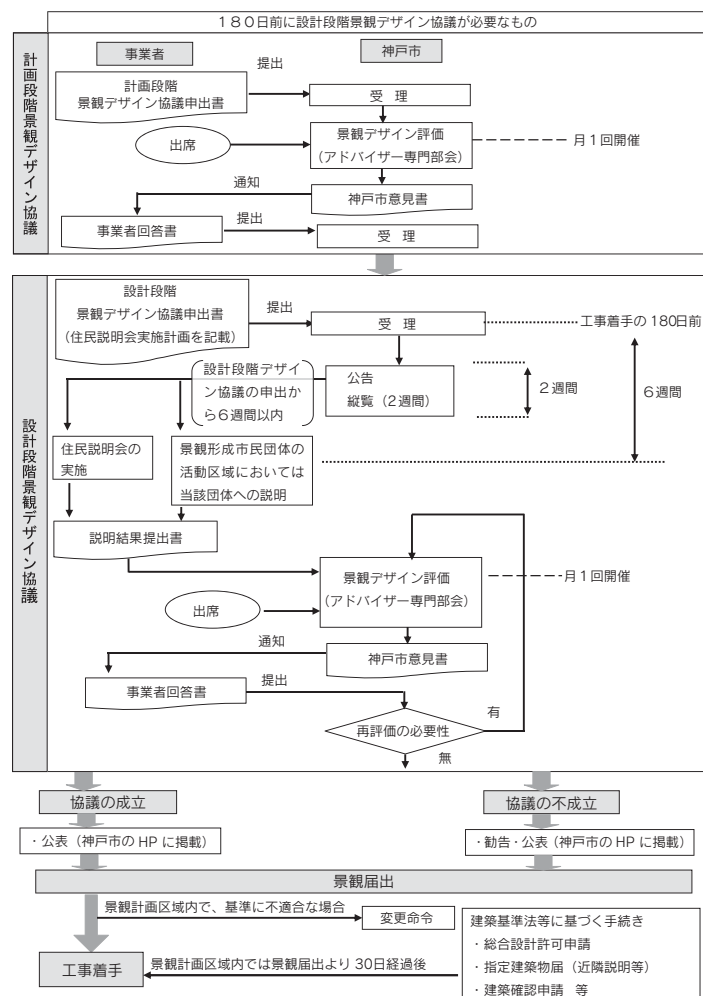


図1 景観デザイン協議の手順

製材組梁のコノイド 曲面屋根とRC壁柱の ハイブリッド構造

―道の駅しんしのつ産直市場―

若松宏輔

株式会社 北海道日建設計 構造設計室室員

「道の駅しんしのつ産直市場」は、北海道石狩郡新篠津村に建設された産地直送の食料品を販売する小規模店舗である。(図1)

本建物は、夏季にのみ使用される市場であることから、開放性や賑わいを設計コンセプトにあげた。構造種別は地材地消を意識して道産カラマツ材を用いた木造とした。内部に柱や壁がなく、大きく開放できるという機能面を優先し、RC壁柱を組み合わせたハイブリッド構造を採用した。木造屋根はやわらかでリズムミカルな曲面とすることで、市場としての賑わいを表現し、道の駅の新たなランドマークとなることを目指した。

製材組梁のコノイド曲面屋根

道産カラマツとして一般的に流通している最長3.65mまでの製材を組み合わせた梁を用いることで、最大積雪深140cmの多雪地域ながら製材による6mスパンの梁を実現した。組梁は、中央を90×210、端部を2枚の45×210とし、900mm重ねてボルト接合することで剛接合とした。(図2)

さらに、垂木の両端を波打たせることで、曲面を構成している。この曲面は直材をずらして形成できるコノイド曲面であり、木造の多様な形状表現をローコストで実現した。(図3)

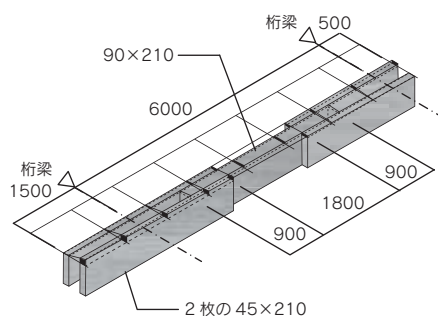


図2 製材組梁



図1 外観



図3 コノイド曲面屋根(施工中)

木とRCのハイブリッド構造

屋根を軽量な木造とし、耐震要素を地震力に強いRC壁柱とすることで、内壁のない自由度の高い平面とした。RC壁柱は片持ち柱とし、地震力に対して壁の面外方向にも抵抗させた。

木杭によるパイルドラフト基礎

本敷地は深さ約27mまで泥炭が表出する軟弱な地盤であるが、支持杭では杭コストが過大となることから、上部構造を木造として軽量化し、ベタ基礎(地耐力20kN/m²)とすることで地反力を均し、不同沈下対策として木杭によるパイルドラフト基礎(沈下抑制杭併用基礎)を採用しコストを抑えた。木杭は末口200φの丸太を用いて、水位変動より空気に触れる範囲は防腐・防蟻剤を塗布して耐久性を向上させた。(図5)



図5 木杭(道産カラマツ、末口200φ丸太)

まとめ

本建物は小規模でローコストながら、製材組梁によるロングスパン化、コノイド曲面による構造デザイン、RC造とのハイブリッドによる平面自由度と耐久性向上、木杭のパイルドラフトによる不同沈下対策と、コンセプトと合致した様々な構造技術を実現することができた。(図6)



図6 構造デザインパース

建築概要

構造形式：鉄筋コンクリート造、一部木造

建築面積：145.80㎡ 階数：平屋

延床面積：160.32㎡ 高さ：3.6m

(わかまつ こうすけ)

●若松宏輔

室蘭工業大学大学院 工学部 建設システム工学専攻卒業。2009年より(株)北海道日建設計。

木村 松本 (木村 吉成・松本 尚子)



「K」前にて

■経歴

- 木村 吉成 (Kimura Yoshinari)
1973年 和歌山県生まれ
1996年 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業
1997年 同大学根岸一之研究室研究生修了
1997年 狩野忠正建築研究所
2003年 木村松本を設立
2009年 大阪市立大学 居住環境学科 非常勤講師
2009年 大阪工業技術専門学校 非常勤講師
2012年 大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 非常勤講師

- 松本 尚子 (Matsumoto Naoko)
1975年 京都府生まれ
1997年 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業
1999年 同大学根岸一之研究室研究生修了
2003年 木村松本を設立
2009年 大阪市立大学 居住環境学科 非常勤講師
2011年 滋賀県立大学 生活デザイン学科 非常勤講師

■受賞歴

- 2008年 第27回 鹿島出版会 SDレビュー2008 入賞

聞き手 黒川祐樹 (日建設計)
写真撮影 河合止揚

シンクロ、融合、還元

「けっこうなシンクロ率です (笑)」と、木村氏は妻でありパートナーである松本氏と二人の建築に対する感性について照れくさそうに話してくださった。木村氏と松本氏が二人で事務所を立ち上げたのは10年前になる。以降、全プロジェクトを設計から現場監理まで二人で一緒に行い、プロジェクトごとに担当を分けることはしない。二人とも大阪芸大根岸研究室の出身であり、建築に対する考えは似ている。言葉やスケッチ、模型で考えを共有する。それぞれが導き出すアイデアはシンクロし、より発展していく。

彼らの設計理念は、「そこに建築を建てることで施主を幸福にすることはもちろん、結果的に周辺環境や周辺住民へその幸福を還元すること」である。そこで行われている行為や周辺環境を参照し、その良さを活かして設計をすることで、その場所に以前からその建築が存在していたかのように周辺環境をうまく上書きする。その結果、彼らの設計した新築プロジェクトはリノベーションと勘違いされることがある。これは彼らの狙うところであり、その建築が周辺環境に溶け込んでいる証でもある。

住宅設計にあたり、施主の求める生活をプログラムすることから始める。何度も施主と一緒に見学や食事に行き、求めている生活が何かともに徹底的に探る。その生活像を施主と共有できてから、本格的に図面を書き始める。生活像を探っている時が一番設計していると感じるという。

案内していただいた「K」(ギャラリー兼アトリエ兼個人住宅)では、竣工まで3年強かかっている。それだけの期間をかけて完成した建築は、建築家と施主、両方の想いがシンクロすることでコンセプトとライフスタイルがびたりと符合し、実に良く住みこなされていた。1階のギャラリーは、道路との間のオープンスペース、前面道路幅を参照した高い天井、手をかけて寄りかけられる高さの腰壁とその上部の大開口、薄い壁等により適度な解放感を持たせギャラリーとまちを緩やかにつなぐことで、内部からも街路からも心地よい開放感を持つ空間となっている。これは下町風情の残る住宅密集地の中に工房やギャラリーが点在する周辺環境において、街路との適切な間合いであると感じた。さらに近隣の古い銀行から参照した格子窓はどこか懐かしい雰囲気を醸し出し、「K」はまちに溶け込んでいた。

一方、泉北ニュータウンで大阪市立大、NPO法人と協働で取り組むまちづくり「泉北ほっとけないネットワーク」という府営住宅の団地再生事業も三年目に突入している。高齢化の最先端に行く泉北ニュータウンで、豊かな自然環境と成熟したコミュニティ、住宅ストックを活かし、高齢者が負荷の無い生活を送れる環境を作ることが目的に活動をしている。高齢者単身世帯が必要とする住居面積と既存府営住宅の住戸面積の差に着目し、余分な住戸面積をケア施設等にリノベーションし、「離れ」としてさまざまな機能を持たせ団地の中に点在させ、食事や見守り等のサポートをそれらと連動させる高齢者集住システムを作り上げている。

このほか、大阪の旧西横堀川近隣のまちづくりワークショップのディレクターを務める等、建築設計以外でも活躍の場が広がっている。

この多方面の活躍の背景には、両氏の次のような考えがある。

「建築家の持つ職能は、まちで起こっている問題や潜んでいる良いところに手を貸せる技術。建築設計に限らず、持てる技術を活かせる場所であれば、どこであれ活かしたい。それにより自分たちが携わったものが、誰かの生活の一部に取り込まれることの新鮮さと喜びを、日々感じていきたい」。

「K」の柔らかで緩やかな空間の中で建築家の果たすべき役割について熱く語る両氏から、建築家が、職能を積極的に適切にまちに還元することで生み出される環境の大きな可能性を感じることができた。

中央電気倶楽部

植松 清志

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

■中央電気倶楽部設立の経緯

「日本電燈協会」は、わが国の電気事業の発達を期するため、明治25年（1892）4月に設立され、同28年5月に「日本電気協会」と改称された。明治43年に関西支部が設けられるが、東京中心の協会の活動に対し、大正2年（1913）10月に大阪電灯が中心となって「中央電気協会」を設立し、日本電気協会から分離・独立した。

この中央電気協会の活動や会合などの場として会館建設の機運が高まり、大正3年11月6日、大阪電灯社長・土居通夫を中心に、電灯・電力・電鉄・電機・電線会社などが主体となって、社交倶楽部「関西電気倶楽部」（翌4年「中央電気倶楽部」と改称）が創立され、木造の会館が竣工した。協会・倶楽部の双方に「中央」を冠したところに、当時の大阪人の気概が強く感じられるという¹⁾。

■中央電気倶楽部

新築された会館は、翌年火災によって焼失し、同5年に再建された。その後、約10年を経て手狭になり、さらに昭和2年（1927）の北丹後地震²⁾の影響を受けたため、同5年に、建築家葛野壮一郎の設計によって現会館（写真①②）が建設された³⁾。

葛野は、「クラブ建築の目的と設備に就いて」⁴⁾で、クラブ建築を、面会・談話などができる施設として機能させることにより、自宅での接客や訪問の手間が省け、家庭の負担が軽減されることから、「客室と食堂の延長」と位置づけ、同建築は社交上の便宜を得ようとするものであるが、その本質は「忙しい人間の為に設けられた社交機関」であるとの観

点から、最も重要な室として、談話室・食堂・大会堂を掲げている。ここでは、葛野の論文と本誌に掲載された図面や写真から、この建築を見ていくことにしたい⁵⁾。

1) 談話室

談話室は、利用者がのんびりと開放的で明るく軽い気分で、愉快に歓談できるように、「面積も広く天井等も高い方が理想」としている。談話室に続いて「図書室のあるのが一般の配置のやう」⁶⁾とするが、その規模は、忙しい利用者がほっと一息ついて新聞や雑誌を読めるような新聞雑誌室程度で、位置は、比較的静かで出入りに便利な場所としている。談話室に続く囲碁将棋室や撞球室（球戯室）は、前者は大きな室でなくてもよいが、撞球室には相当の広さと位置、採光への配慮を指摘している。さらに、談話室や各種の娯楽室の近くには、酒場の必要性を掲げている。このほか、特別室として和室（日本室）が掲げられているが、茶室があってもよいのではないかと提案している。

これを、会館の平面図で見ると、1階の玄関ホール（広間）に面して、談話室酒場と囲碁将棋室（写真③⑦⑫）が隣接し、その奥に数段下がって球戯室（写真⑬）が配され、段差によって高い空間が確保されている。

2階の談話室（写真④⑧⑭⑯）には、階段を数段上がって入室するが、この一画に、図書室や会議室が配されている。また、同階には、茶室ではないが、炉を切った数寄屋風の瀟洒な日本室（写真⑧⑮）が設けられている。葛野が言う最も重要な談話室は1・2階に配されているが、1階の談話室は入りやすく、少し賑やかな遊びとくつろぎの空間、2階の



①外観（現在）

所在地／大阪市北区堂島中2丁目9
（現・北区堂島浜2丁目1・25）
設計／葛野建築事務所
施工／大林組
竣工／昭和5年9月15日
様式／近世式
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地上5階、地下1階
種別／会館



②外観



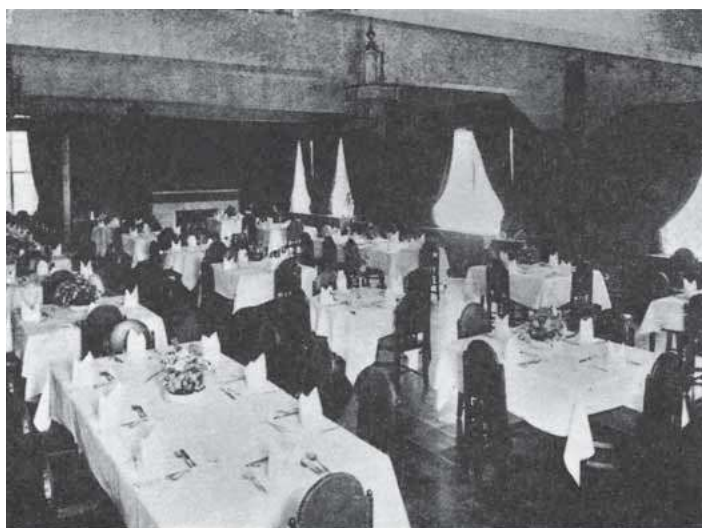
③囲碁将棋室



⑪喫煙室



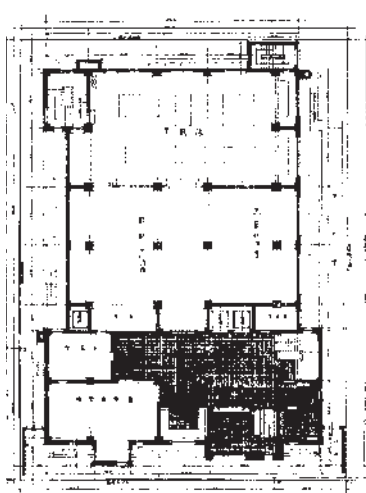
④談話室



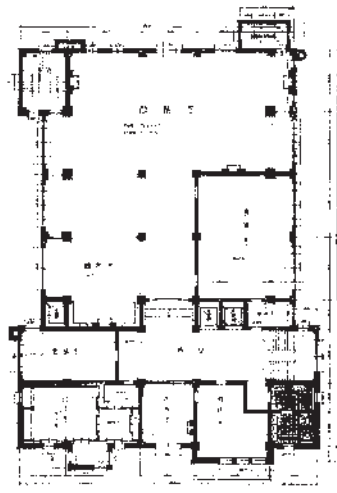
⑤大食堂



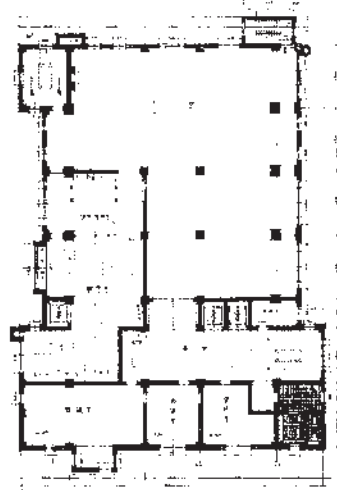
⑥大講堂



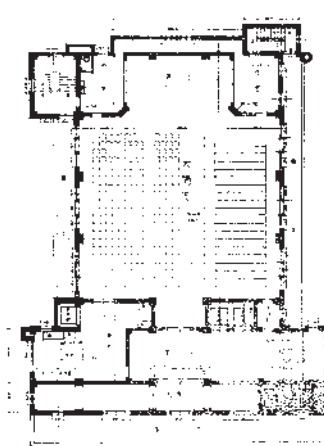
⑦1階平面図



⑧2階平面図



⑨3階平面図



⑩4階平面図

「建築と社会」第13輯第12号（昭和5年11月号）より



⑫現1階ロビー（右：旧囲碁将棋室、奥：球戯室）



⑬球戯室



⑭談話室



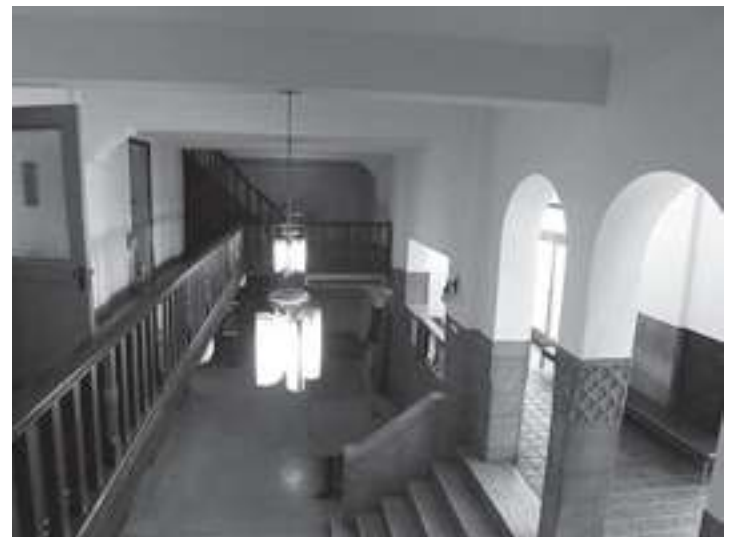
⑮日本室



⑯大食堂前の吹き抜け



⑰現5階大ホール（旧大講堂）



⑱現5階大ホール前の吹き抜け（右：喫煙室）

談話室はゆっくり読書や歓談ができる、静穏な空間とし、二つの談話室の性格を区別している。

2) 食堂 (大食堂)

食堂は広い空間で、談話室の付近に配するとともに、「食事が美味しいといふことが必要の必要」と、食事の質にもこだわっている。また、多くの倶楽部での食事が洋食本位であることを考慮して、すき焼きや日本料理向の別室を置くことも普通のように考えられるとしている。

会館を見ると、3階は大食堂 (写真⑤⑨) と調理室が大部分を占め、吹き抜けが設けられ、くつろいだ空間を実現している。食堂へ入室するために設けられた階段により、食堂前のホール (広間) にも吹き抜けが確保され (写真⑨⑩)、この階全体がゆったりした空間を表出している。なお、地階には、すき焼き専門店「えき亭」が会館当初より営業している。

3) 大会堂 (大講堂)

大会堂は、大宴会場や種々の集会場として用いられるので、「ステージ及び控室」を設けダンスホールとしての利用も考慮している。

4階に設けられた大会堂 (現5階大ホール、写真⑥⑩⑪) には、舞台・控室が設けられ、現在も講演会のほかダンスホールとしても用いられている。同室には、広間から段差無しで入るためか、対面の数段上がった位置に廊下状の「喫煙室」 (写真⑪) を設けることで、ホール (広間) に吹き抜けが確保されている (写真⑬)。

以上のように、葛野が同倶楽部において、吹き抜けを多用することで、平面構成の変化とともに、立体的な空間の変化にも注意をはらっていることが窺える。

■倶楽部建築

葛野は、「倶楽部」という表記が、いつ、誰によって考え出されたのか知らないが、巧みな訳字であると感心すると同時に、倶楽部建築ができたのは日露戦争 (明治37年) 直後ではないかと推測⁷⁾ している。だが、倶楽部建築の出現はさらに古く、明治初期に主として娯楽享受を目的に作り出された都市施設で、西欧のclubが会合や結社と訳され、当初は苦楽をともしする「苦楽部」、次いで、楽しみだけをともしする「倶楽部」と表記されるようになったという⁸⁾。

club→苦楽部→倶楽部という、本意を損なわない漢字表現は、塔を意味するstupaが→卒塔婆→塔婆→塔と表記されてきた例に似ていて、葛野でなくても当て字の妙に感心する。

葛野が中央電気倶楽部の設計にあたって、

大阪倶楽部 (大正13年) を意識したであろうことは、共通する外観仕上げなどから指摘されている⁹⁾ が、さらに葛野が「一般的」などと掲げている諸室の配置や構成などが、大阪倶楽部 (新・旧) の平面構成に見られることから窺える。一方、葛野が東京帝国大学を明治38年に卒業した後に勤めた横河工務所における、三井倶楽部や交詢社という倶楽部建築への関わり¹⁰⁾、さらに、事務所開設後の大正10年に手がけた大江ビルディング (以下大江ビル、写真⑱) では、1階に大集会室、その一角に囲碁・将棋、ビリヤード、新聞雑誌コーナーやバーカウンターなどが設えられ、貸応接室や地階には和洋食堂・理髪室¹¹⁾ などの倶楽部建築の要素が備えられていた。



⑱大江ビル外観
(『建築と社会』大正10年10月号より)

■まとめ

以上のことから、論文「クラブ建築の目的と設備に就て」は、葛野が横河工務所で携わった倶楽部建築の経験を踏まえ、大江ビルを経て中央電気倶楽部にいたる倶楽部建築論の集大成で、同会館はその実現例と見ることができよう。

一方、スクラッチタイル張りの外観は、大阪倶楽部を意識したものであろうが、葛野の意匠の傾向を見ると、卒業設計 (写真⑳) 以降、大江ビル (大正10年)・宮崎県公会堂¹²⁾ (大正12年) や明星商業学校 (昭和6年) などに見られるような、凹凸による壁面構成、水平線による壁面の分割や平滑な壁面構成など、装飾をおさえたゼツエーション風のデザインが得意で、その真骨頂は、絵画¹³⁾ の技量に裏打ちされたメダリオン (写真㉑) のデザインにあるのではないかと推察する。



㉑卒業設計 (オペラハウス)



㉒メダリオン (左: 卒業設計、右: 現会館)

■注

- 1) 「中央電気倶楽部会館案内」
- 2) 震源は京都府丹後半島北部。マグニチュード7.3。豊岡・宮津市などで震度6、京都・敦賀市などで震度5。大阪市内では、泥水が地表から噴出すなどの液状化現象が起きた。(ウイキペディア「北丹後地震」)
- 3) 復刻版『近代建築画譜』(以下画譜、不二出版、平成19年) には、「舊中央電気倶楽部」の各階平面図や写真も掲載されているが、竣工年の記載が無く、当初の会館か二代目かは不明。
- 4) 『建築と社会』昭和5年3月号。以下、出典の明示が無い引用は同論文による。
- 5) 室名が、論文と本誌掲載の図面や写真とで異なる場合は、() 内に図面・写真の室名を示した。
- 6) 「一般」などとして掲げられる室は、平面構成から大阪倶楽部 (新・旧) を念頭においていたものと推測される。
- 7) 注4) に同じ
- 8) 橋爪紳也『倶楽部と日本人』(学芸出版社、平成元年)
- 9) 酒井一光「中央電気倶楽部」『大阪人』平成20年1月号
- 10) 注4) に同じ
- 11) 注8) に同じ
- 12) 「さようなら県公会堂」の説明文中に、「大正12年に建設された…公会堂兼県議会議事堂として建てられたもの…」とあり、画譜によれば、葛野建築事務所の主要な関係工事に「宮崎県公会堂及議事堂」が掲げられている。昭和44年に取り壊された。
- 13) 葛野が絵画に親しんでいたことは、拙稿「葛野壮一郎」(『日本建築協会80年史』所収、平成11年) で紹介した。

■参考

- ・日本電気協会HP
- ・日本電気協会関西支部HP
- ・中央電気倶楽部HP

取材に際し、中央電気倶楽部常務理事西牧隆利氏、同マネージャー川原実氏に種々ご高配を賜りました。末筆ながら記して感謝申し上げます。

(うえまつ きよし/大阪人間科学大学
環境・建築デザイン学科教授)

▶升田学ヒトスジ展 | 空地

「ヒトスジ」とは、一本の針金から一筆描きの要領で制作される美術作品。これまで「人の筋」「一本の筋」をキーワードとして、「繋がり」「連鎖」「血脈」を感じさせる作品を数多く制作。平面を意識して制作される作品は、それでいて面を持たず、背景を取込み、影を落とす。本展覧会では「空地」と題して、アスファルトやコンクリート等で埋め尽くされた地面から力強く生える草花をモチーフにした作品を展示。中でも頭部に空き地を型どった人体作品は、草や花や虫と一本に繋がりと、生と死を連想させる。照明デザインは、舞台を中心に活躍する照明家・筆谷亮也が担当。酒蔵が美術空間に変わる展示となる。

期 間 3月8日(金)～3月31日(日)

10:00～18:00

休館日 月曜日

会 場 伊丹市立伊丹郷町館

(旧岡田家住宅・酒蔵)

伊丹市宮ノ前2丁目5番28号

「みやのまえ文化の郷」内

TEL.072-772-5959

入場料 無料

■関連企画

升田学 ヒトスジ滞在制作

展示空間内で作品制作を行う。一本の針金を曲げて制作する様子を自由にご覧ください。

日 時 2013年3月8日(金)～15日(金)

14:00～17:00 月曜休館

会 場 伊丹市立伊丹郷町館

旧岡田家住宅・酒蔵 展示空間内



升田学《空地01》2013年 撮影：井上嘉和、照明：筆谷亮也／伊丹市立伊丹郷町館

①円山応挙展 —江戸時代絵画 真の実力者—

18世紀の京都画壇で高い人気を博した円山応挙(1733～95)。写生を重視した応挙の絵は、画題への知識や文人的な教養がなくても楽しめるという新しさがあった。応挙の作品は平明な写生にとどまらず、障壁画や屏風絵において部屋や画面の形を絵の空間表現に利用したトリックアートの的な着想や、大胆・軽妙に筆を操りながらリアルさを感じさせる驚異的な技量など、多くの革新と魅力に満ちている。本展では、国宝・重要文化財や展覧会初公開作品を含む応挙の代表作を紹介するとともに、西洋画の遠近法を用いた若年期の「眼鏡絵」制作や、中国絵画の学習、後世への影響など、さまざまな角度から応挙の実像を再考する。障壁画では大乗寺客殿の空間を再現し、自然光のように変化する照明により、応挙の意図が体感できる。日本・中国・西洋の絵画を吸収して完璧な様式美をつくりあげ、近代の日本画を準備した真の実力者、応挙の芸術を紹介する。

期 間 3月1日(金)～4月14日(日)

10:00～18:00

金曜日は20:00まで

(入館は閉館30分前まで)

休館日 月曜日

会 場 愛知県美術館

(愛知芸術文化センター10階)

名古屋市東区東桜1-13-2

TEL.052-971-5511

観覧料 一般1,300円、高大生1,000円、

中学生以下無料



重要文化財 円山応挙《松に孔雀図襖》十六面(部分) 寛政7年(1795) 大乗寺蔵

②特集展 人間国宝 濱田庄司の茶碗 —堀尾幹雄コレクション—

人間国宝の濱田庄司(1894～1978)は、英国にてバーナード・リーチとともに作陶に励み、ロンドンで最初の個展を行い高い評価を得た。帰国後は、栃木県益子に居を定め、終生益子での作陶活動を続けた。1925年頃から、柳宗悦・河井寛次郎らとともに「民藝」運動を推進。濱田は自らの作陶においても、民藝の無名の工人たちの精神を体現しながら、生活に

根ざしたやきものづくりに生涯をかけ、実用第一の健やかで堅実な作風の作品を数多く残した。本展では、濱田とも親交のあった故堀尾幹雄氏より寄贈されたコレクションから、代表的な茶碗約20点を選んで紹介する。

期 間 3月31日(日)まで

9:30～17:00

(入館16:30まで)

休館日 月曜日

会 場 大阪市立東洋陶磁美術館

大阪市北区中之島1-1-26

TEL.06-6223-0055

観覧料 一般500円、高大生300円、
中学生以下無料



どうがらんやわん 象嵌茶碗 1944年秋 大阪市立東洋陶磁美術館蔵 堀尾幹雄氏寄贈

■同時開催／平常展

安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁、
イヒョンチャン
李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁、沖
正一郎コレクション鼻煙壺。

③ グラデーション 階調の美・銅版画

西宮市大谷記念美術館の所蔵品は大谷竹次郎氏寄贈の美術コレクションにはじまる。当初のコレクションに版画は含まれていなかったが、所蔵品の拡充を図るため収集に努め、現在では120点を超える版画作品を所蔵している。木版画や石版画など多様な技法がある版画の中でも、繊細な線描や色の階調の美しさが魅力の銅版画のコレクションは、海外の作品から国内の近代・現代の作品まで質、量ともに充実している。本展では、ダリをはじめ、ジョルジュ・ルオー、竹腰健造、高羽敏、武藤完一、浜口陽三らの銅版画を展示する。

期 間 3月24日(日)まで

10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 水曜日、3/21 (3/20は開館)

会 場 西宮市大谷記念美術館

兵庫県西宮市中浜町4-38

TEL.0798-33-0164

観覧料 一般300円、高大学生200円、
小中生100円

※無料開館日 3月3日(日)



竹腰健造《ペルーシアのアウグストゥス門》1917年頃
西宮市大谷記念美術館

■同時開催

西宮市民文化賞受賞作家展1988—2011

西宮市では1961年より文化のまちづくりに貢献した市民・団体に西宮市民文化賞の表彰を行っている。文化、芸術の分野で受賞した造形芸術家28名の中から、1988年10月開催の「西宮市民文化賞受賞14人の世界」展以降に受賞した14名の作家を、当館や市の所蔵品を中心に紹介する。

出品作家：曾木節／有田光甫／亀井貞雄／今竹翠／加登豆川／阪口孝／松谷武判／墨谷華／武井泰道／大野ユタカ／藤本由紀夫／遠藤隆稔／長崎稔／羽田英彦

④超・大河原邦男展

ーレジェンド・オブ・メカデザインー

おおかみわらにお
大河原邦男（1947～）は主にアニメーション作品に登場するロボットなどをデザインするメカニカルデザインという仕事を日本において確立した、生きた伝説とも呼ぶべき存在。「科学忍者隊ガッチャマン」（1972）、「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」（1977）、「機動戦士ガンダム」（1979）などのアニメ作品は今もたくさんの人々に親しまれているが、その人気を大きく支えているのが大河原氏によるメカデザインである。硬質でリアリティにあふれるものからユーモアにみちたものまで、多様な魅力をたたえる大河原デザイン。それは20世紀の視覚文化における最も重要なもののひとつであり、国境も世代も越えた影響力を保ちつづけている。出品作品の中核をなす大河原氏直筆の設定資料はこれまで門外不出とされてきたもので、そのほとんどが本邦初公開。総出品作品数は400点以上のかつてない規模の展覧会となる。

期 間 3月23日（土）～5月19日（日）

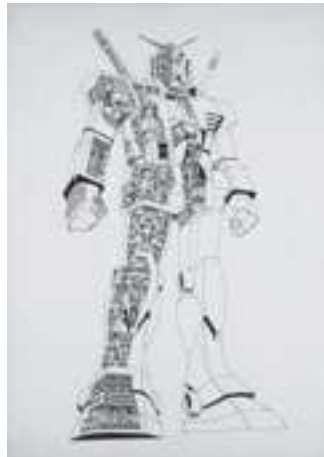
10：00～18：00 金・土曜日は20：00まで（入場は閉館の30分前まで）

休館日 月曜日、（4/29、5/6は開館、4/30、

5/7は休館）

会 場 兵庫県立美術館 3階 企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL.078-262-0901

観覧料 一般1,300円、大学生900円、
高校生・65歳以上650円、
中学生以下無料



「機動戦士ガンダム」基本設定：ガンダム内部図解
1979頃 ©創通・サンライズ

⑤春季特別展 古代ガラス

ー色彩の饗宴ー

大英博物館の名宝・特別展

今から4500年ほど前、北メソポタミアで生みだされたガラスは、鮮やかな色彩と美しい輝きで人々を魅了し続けてきた。本展は、大英博物館より特別展される古代ガラスの世界の名宝10点に、国内の優れたガラスコレクションを合わせて、約200件を展観する。色と技法を切り口に、古代の作品と本物の貴石や現代の技法で復元した作品を並べて比較し、最新の化学分析の成果を踏まえながら古代ガラスの謎に迫る。ガラスが天然の貴石と同等の価値を持っていた時代に、透明感や自在な成形といったガラスの特性を巧みに利用し、新たな美の世界を創造した古代の美意識を紹介する。



スパイラルレースガラス碗 東地中海地域（伝クレタ島出土）前2世紀 大英博物館蔵
©The Trustees of the British Museum

期 間 3月9日（土）～6月9日（日）

10：00～17：00（入館は16：00まで）

休館日 月曜日（4/29、5/6は開館、4/30、5/7は休館）

会 場 MIHO MUSEUM
滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷300
TEL.0748-82-3411

観覧料 一般1,000円、高大生800円
小中生300円

▶「MOK2013」第18期生募集要項

阪神大震災を契機に木造を根本から学びなおす社会人向けの学校として1996年に開校し、今年で18年目を迎える。「木」をキーワードに、第一線で活躍する講師陣による全7回、20講座。共に学ぶ仲間を広く募集する。

●受講資格

設計者、施工者、林業家、製材業者、役所や企業の建築担当者等、木造住宅に携わる人、建築を志す学生など。

●2013年度講師（予定・敬称略）

小泉誠・竹原義二・南雄三・山辺豊彦・三澤文子・三澤康彦・安井昇ほか

●期間

○2013年度開校日 4月20日（土）

○講義：4月～12月（4/20・6/8・7/6・8/10・9/21・10/19・12/14）
13時20分～19時（1講座100分）

○フィールドゼミ：

5/18・19（福島県南会津町）

11/16・17（岐阜白鳥）

※フィールドゼミの参加費用は別途必要

●会場

大阪工業技術専門学校講義室（大阪市北区天満1-8-24）

●定員

40名（申込み先着順定員になり次第締切）

●募集期間

2月中旬より随時

●参加費

MOKスクール受講費年間7万円、学割5万円（次年からの更新費年間¥15,000）

●申込み・問合せ

MOKスクール大阪事務局

大阪市福島区福島2丁目9-16

Tel.06-4796-7818 fax.06-6458-5090

e-mail info@mokosaka.jp

URL <http://www.mokosaka.jp/>

本欄掲載の①～⑤の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（80円）を日本建築協会事務局までお送りください。

理事会

第8回常任理事会

1月23日(水) 16:00~17:30

出席者 香西会長ほか10名

- 議 事 (1) 平成24年度本部収支見込みについて
(2) 一般社団法人移行後の支部規程について
(3) 一般社団法人移行後の財務規程について
(4) 一般社団法人移行後の役員構成について
(5) その他

編集委員会

第2回編集委員会+広告企画小委員会

1月15日(火) 18:00~19:40

出席者 米井委員長ほか8名

- 議 事 [編集委員会]
(1) 2月号特集「“らしくない”空間」検討
(2) 3月号特集「東海支部特集」検討
(3) 4月号特集 作品募集「第19回会員作品特集号“私の空間作法”」検討
(4) 5月号特集「コミュニティのかたち—人をつなぐし—くみを考える—(仮)」検討
[広告企画小委員会]
(1) 8月号特集「うめきた」企画検討
(2) 広告依頼先検討 2月号・3月号

第6回計画系分科会

1月9日(水) 19:00~20:45

出席者 松田副幹事ほか2名

議 事 5月号特集について

第1回建築計画系分科会

1月11日(金) 19:00~22:00

出席者 米山幹事ほか6名

- 議 事 (1) 5月号特集について
(2) 9月号特集のすすめかたについて

第9回インテリア・住宅系分科会

1月22日(火) 19:30~21:15

出席者 間瀬幹事ほか1名

議 事 5月号特集について

第10回構造分科会

1月21日(月) 18:00~20:00

出席者 橋本幹事ほか3名

- 議 事 (1) 「構造の頁」について
(2) 5月号特集について

第8回設備分科会

1月16日(水) 18:00~20:30

出席者 赤澤幹事ほか6名

- 議 事 (1) 「設備の頁」の企画
(2) 見学会の企画
(3) 次回の特集テーマの検討

第10回法令分科会

1月15日(火) 16:00~18:00

出席者 平山幹事ほか5名

議 事 (1) 「法令コーナー」の企画

第10回作品作風小委員会

1月24日(木) 19:00~21:00

出席者 稲垣副委員長ほか5名

- 議 事 (1) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3) 「gallery」掲載報告・予定

事業委員会

第6回情報見学小委員会

1月10日(木) 18:00~18:30

出席者 瀬戸川委員長ほか11名

- 議 事 (1) 「中之島フェスティバルタワー」見学会実施報告
(2) 「流響院」茶室見学会、同志社大学今出川キャンパス「良心館」見学会について

教育委員会

第4回工高生教育小委員会

1月18日(金) 18:00~19:15

出席者 谷口副委員長ほか5名

- 議 事 (1) 第59回工高生デザインコンクール募集規定の検討
(2) 今後の作業予定等
(3) その他

出版委員会

第9回出版委員会

1月17日(木) 18:00~19:00

出席者 井上委員長ほか7名

- 議 事 (1) プロのノウハウと特装本の経過報告
(2) 進行中のテーマについて

10年委員会

第8回10年委員会

1月11日(金) 18:30~19:00

出席者 設楽委員長ほか4名

- 議 事 (1) 「新えとこ」提案コンクール表彰式について
(2) 学生のための見学会について

編集委員会(平成24年度)

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常
■編集担当理事
浅野真一郎
佐藤 榮一
竹中 統一
立成 良三
松村 孝治
三柴 利雄
吉村 英祐
◎米井 寛

■副委員長

勝山 太郎

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡
鈴木 克彦
高橋 和也
田中 直人
不動 剛志
紅谷 昇平
松田奈緒子
三宅 次郎
△守井 辰

★建築計画系

荒木 宏之
△大西 広朗
清原 健史
静 茂夫
下坂 浩和
野田 隆史
福田 容明
矢嶋 陽平
米山 剛史

★インテリア・住宅

川合 隆之
小西 貴宏
黒柳 亮
谷垣 浩一
塚口真佐子
ベリー史子
△間瀬 一博

■構造分科会

秋田 智
石田 大三
岸本 光平
小芝 淳一
志摩 好宣
瀧野 敦夫
角田 耕一
△橋本 宗明
松村 健

■設備分科会

△赤澤 正治
岩城 憲治
梶井 宏修
北野 勝也
樺田 輝雄
谷野 太志
夏井 重行
野崎 正二
橋本 直樹
福谷 周
梶井 貴廣
宮崎ひろ志
村上幸三郎
■施工材料分科会
桜井 和男
高橋 秀一
荻原 友貴
中野 敬史
△藤丸 慶一
渡邊 聡
■法令分科会
岩見 吉剛
河野 学
小松 輝樹
越智 有子
吉岡 忠
△平山 英
吉岡 純
鷲尾 真弓
■作品作風小委員会
居内 章夫
池上 明
○稲垣 和江
雅祐
加嶋 章博
菊池 浩輔
倉橋 尉仁
倉淵奈千子
澤田 純一
榎野 敦司
豊田 光広
鳥居 久人
西田 佳代
芳谷 晴彦
増田 敬彦
廻 はるよ
■広告企画小委員会
大谷 金由
小川 雄介
小山 昭
権代 晃
○前田 衛
山辻 直樹

◎委員長 ○副委員長 △幹事
(順不同)

印刷 2013年2月27日
発行 2013年3月1日
発行人 社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 藤中島弘文堂印刷所
定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工



本社・本店 〒550-0002 大阪府西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6443-8231
東京本社 〒540-0071 東京都千代田区墨田2丁目25番18号 電話(03)3262-8233
支社 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・大塚・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 羽田・国府・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・岐阜・松山・高松・北九州・鹿児島・那覇
支店 旭川・旭川・札幌・仙台・横浜・千葉・新潟・大塚・岡山・
海外支店 シンガポール・ホノルル
技術研究所 〒204-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北水町399番地 電話(0492)58-1311

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応するために

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761/FAX.06-6976-8765

東京事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1丁目9番地ニュー御茶ノ水ビル601号
TEL.03-3526-5580/FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail:sc@nacl.co.jp

本部署 〒560-0036 大阪府豊中市箕池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1832

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

高性能膨張材

デンカパワーCSA

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

JIS A 6202
適合品

特性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材
(タスコン)
 - ・躯体防水材
(シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル
(RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社

〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所

〒561-0817 大阪府豊中市浜 1 丁目 1 番 7 号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1 丁目 14 番 6 号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

チラシ封入サービスのご案内

会員限定

貴社の広告チラシを「建築と社会」発送と“同封”しませんか。
チラシをご提供下さい。

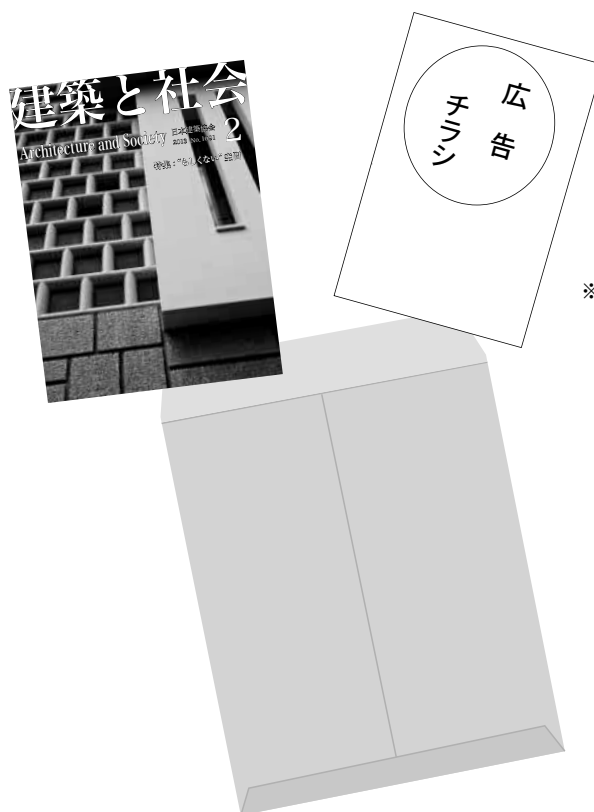
料金 1回につき **20,000円** (税別)

当協会でチラシをプリント（カラー片面）した場合20円／枚必要です。

申し込み方法：申込用紙にご記入いただきFAXまたはE-mailでお送り下さい。

お問合せは(社)日本建築協会（担当／片山）まで

TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984 E-mail:h-katayama@aaaj.or.jp



※チラシサイズ：A4版
パンフレット：20頁程度迄

申込用紙 きりとり

会社名		
ご連絡先 (住所・担当者名・部署名)	住所 担当者名	部署名
ご連絡先 電話番号・E-mail	電話番号 E-mail：	



社団法人 日本建築協会